

令和3年度使用

中学校用教科用図書の
採択に関する調査研究報告書

浜田地区教科用図書採択協議会調査員会

各発行者記号は次のとおりである。

記号	発行者名	発行者略称
A	東京書籍株式会社	東 書
B	大日本図書株式会社	大日本
C	教育図書株式会社	教 図
D	開隆堂出版株式会社	開隆堂
E	学校図書株式会社	学 図
F	株式会社三省堂	三省堂
G	教育出版株式会社	教 出
H	株式会社教育芸術社	教 芸
I	光村図書出版株式会社	光 村
J	株式会社帝国書院	帝 国

記号	発行者名	発行者略称
K	株式会社大修館書店	大修館
L	株式会社新興出版社啓林館	啓林館
M	株式会社山川出版社	山 川
N	数研出版株式会社	数 研
O	日本文教出版株式会社	日 文
P	株式会社学研教育みらい	学 研
Q	株式会社自由社	自由社
R	株式会社育鵬社	育鵬社
S	廣濟堂あかつき株式会社	廣あかつき

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○本編・基礎編・資料編の3部で構成され、「基礎編」では身につけさせたい力が整理されており、「資料編」では学びを深めることのできる資料が掲載されている。</p> <p>○巻頭で、1年間で学ぶ事柄を観点別・学習内容別に整理し、見通しをもちやすくしている。</p> <p>○領域別にページを色分けし、視覚的に見やすく整理されている。</p> <p>○文章下部に、ドットを付記し、行番号を数えやすくしている。</p>	<p>○「書く」領域、「話す・聞く」領域では、学習の手立てを、具体例を用いつつ視覚的に分かりやすく整理している。</p> <p>また、文法教材においても例示を交え適切にまとめている。</p> <p>○「書く」領域では、食文化や学校生活など、身近で取り組みやすい題材を用いている。</p> <p>○「読む」領域で学習したことを踏まえ、他の領域の学習に結びつくよう構成されている。</p> <p>○各教材のはじめに、キャラクターが問いかける形で学習のねらいを示し、問題意識をもちやすくしている。</p>	<p>○学習の導入にマンガを用い、生徒が問題意識を高め、意欲的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>○古典学習の導入に「浦島太郎」「伊曾保物語」を引用し(1年p.126)、関心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭に示されるQRコードを利用し、各教材の関連資料に速やかにアクセスできる。</p> <p>○webコンテンツでは、文法ゲームや練習問題を掲載し、意欲的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○教材の終わりに「てびき」の項を設け、目標や身につけさせたい力が整理されている。</p> <p>○説明的文章では、図表の読み取り(1年p.97)や読み比べ(2年p.90)を取り上げながら、論理的思考力の向上を図っている。</p> <p>○「読書案内」で図書紹介をするとともに、「読書活動」では図書館の機能を活用した活動が示されている。</p> <p>○「説明的文章」では、新しい情報を扱った教材を用いている。(1年p.97、3年p.281)</p>	<p>○他教科との関連のもてるものについてはマークをつけている。(1年p.172)</p> <p>○巻末の資料編では、要約の仕方や情報の調べ方について示されている。</p> <p>また、手紙や新聞の書き方も紹介され、広く各教科の調べ学習に活用できるようになっている。</p> <p>○巻末の資料編では、「話すこと・聞くこと」の題材例が示されるなど、課題を見つけ、学習を発展させる手がかりを示している。</p>	<p>○キャラクターの活用や色の効果的な利用を通して、生徒にとって親しみやすく、また、学習のねらいや手立てを捉えやすく構成されている。</p> <p>○基礎編には、身につけさせたい力が、明確かつ系統的に示されている。</p> <p>○教材の始めに「めあて」、終わりに「まとめ」を提示すること、教材で学んだことを次の教材に結びつけることなど、学習の流れを意識して構成され、主体的・対話的で深い学びの実現をめざしている。</p>
装丁(デザイン)が美しい。						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫思考力	
F	<p>○本編と資料編の2部構成になっている。身につけさせたい力（知識・技能と思考力・判断力・表現力）と教材や取り組む言語活動が、一覧表に示されており、指導事項と教材との関連が明確である。（1年p. 6）</p> <p>○各学年、本編の最後に「読書の広場」が設けられ（1年p. 238）、5作品を掲載し、本編で学習してきた「読み方を学ぼう」の力のどれを活用できるか示してある。</p>	<p>○各学年「読み方を学ぼう」として、3年間を通じたい力が明確にされ、図解でわかりやすく表されている。また、読解の力が伸びるように配慮されている。（3年巻末折込）</p> <p>○各学年「情報」（1年p. 142）についての単元を設け、複数の情報を関連付けて考えをまとめるという生徒の課題に対応するよう、データと文章を関連付けて自分の考えを表現する単元がある。</p>	<p>○古典教材にはそれぞれ年表が付され、学習者が時代背景と結びつけるのに役立つ。また、資料編「古典芸能に親しむ」では、各学年違った芸能を取り上げ、豊富な写真とともに紹介し、関心を高めるよう工夫されている。</p> <p>○又吉直樹や夏井いつきなどTVでなじみのある作家の読書紹介（1年p. 92）や俳人の文章（3年p. 62、p. 65）をとりあげている。</p> <p>○古典作品（1年p. 135）と「読書の広場」にはQRコードが付されている。リンク先には他の章段の紹介や、読解の手助けになるような図解が掲載されている。</p>	<p>○音節の数え方の違いを取り上げる（1年p. 37）など、外国語との関連を取り上げている。</p> <p>○「資料編」として、情報検索、メモや手紙の書き方等がまとめられており、他教科や社会生活にも活用できる内容がまとめてある。</p> <p>○各教材に、「私の本棚」として、関連した本が3冊紹介されている。また、巻末の「読書の広場」（1年p. 238）もあり、たくさんの図書資料を紹介している。</p>	<p>○「漢字を身につけよう」（例1年p. 38）では巻末の新出漢字一覧のページを示し、家庭学習で取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○各学年とも最終単元に「歌の言葉」というページがあり、歌詞が掲載され、学習者の意欲付けや言葉への意識が生活の中でも磨かれるような工夫がなされている。</p>	<p>○「読む」領域の「学びの道しるべ」、「話す・聞く」領域の「学習の流れ」では、学習過程を示し、見通しをもって学習し、「学びを振り返る」でキーワードを示すことで学んだことを学習者が意識化できるようにしている。</p> <p>○教材によってどのような考えを進めていくかを「思考の方法」として示している。3年間で様々な思考法を身につけていける。（1年p. 18）</p> <p>○色や記号や折込ページを使用し、視覚的に理解が進むような工夫がある。（1年p. 32、p. 40、2年p. 42、3年p. 42）</p>
	<p>○読書活動（1年ブッククラブ 2年ビブリオバトル 3年ブックトーク）が掲載されている。</p> <p>○課題作文の書き方を取り上げた単元では、例を豊富にあげ、生徒の理解が進むよう工夫されている。（3年p. 52）</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫思考力	(感性をはぐくむ要素を含む)
G	<p>○SDGsの目標から現代課題を単元構成のキーワードとして取り上げ、単元構成をしている。さらに、「総合」としてSDGs教材を設けている。</p> <p>○9つの単元で構成されている。巻末の「言葉の自習室」にも4作品ずつ置くなど、読み物作品が豊富である。</p>	<p>○「メディアと表現」として、広告、SNSをはじめメディアの特徴を知り、表現力やものの見方を養う契機となるような教材が取り上げられている。(2年p.84)</p> <p>○AIを取り上げた教材(3年p.76)もあり、時代の変化に沿った教材を選んでいる。</p> <p>○穂村弘やさくらももこなど現代の作家や著者の題材を取り上げている。</p>	<p>○生徒の関心の高い漫画やアニメの絵コンテ等を取りあげて、メディアの特性と表現の関連を考えさせる単元を配置している。</p> <p>○学びリンクというQRコードを付し、学びを広げるための資料や自分の力で取り組む資料などにつながるようにしている。</p> <p>○古典の単元ページにも写真や地図を豊富に掲載し、イメージを広げやすくしている。1年生古典では「桃太郎」を導入材としており、取り組みやすくしている。</p>	<p>○音節の教え方や単語の表記の仕方の違いを取り上げる(1年p.46、p.260、p.27、p.270)など、外国語との関連を取り上げている。</p> <p>○3年生の近代作品を取り上げた読書ページでは森鷗外の「最後の一句」が取り上げられている。また、裏表紙の内側には『「ふるさと」を巡る』コーナーがあり、津和野町の鷗外生家の写真が掲載されている。</p> <p>○「広がる本の世界」が各単元末に付されており、単元の内容と関連した本が紹介されている。また、読書活動(1ポップ作り・ビブリオバトル)の提示や、奥付、引用、課題設定について(1年p.60、2年p.77)説明した内容が掲載され、図書館の機能を活用した活動が示されている。</p>	<p>○説明的な文章の「学びナビ」(例1年p.33)には本文を読んでキーワードを抜き出すと要点がまとめられるような箇所が用意されている。家庭での予習にも利用できる。また、情報をどのように整理するか(比較・関係づける)などを取り上げており、学習のかまえをつくる工夫がなされている。</p> <p>○各学年「学びのチャレンジ」(例1年p.186)という問題が掲載されている。活用力を確かめるような設問で自身の国語の力を図ることができる。</p>	<p>○新聞や社説の比較を取り上げ、情報収集としての新聞の読み方が学べるような題材がある。</p> <p>○「言葉と社会」では言葉についての学びが社会で生きることを意識できるような内容が学年ごとに系統的に配置されている。(1年対面コミュニケーションと非対面コミュニケーション、2年提案書、3年裁判での意見陳述)</p>
○3年間で取り上げた文豪の作品には作者の紹介を3ページにわたって取り上げ、興味を持たせる工夫がなされている。						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
I	<p>○「学習の見直しをもとに」 「本編」 「学習を広げる」の大きく3部で構成されている。「学習の見直しをもとに」では、身につけさせたい力を各領域ごとに系統的に把握できる。</p> <p>○1年の学習教材は、身近なものを扱った文学作品や論説文、2年では思考を必要とする文学作品、論説文、随筆、3年生では社会に目を向ける内容の文学作品、論説文と、発達の段階に応じた内容になっている。</p>	<p>○教材後の「学習」ページでは学習過程を明示するとともに、重点を解く過程は強調して、年間を通してバランスよく力がつくように配列されている。</p> <p>○随所に既習事項との関連性を明示し学習効果を高める工夫がある。</p> <p>○各学年6カ所に「漢字に親しもう」という漢字練習問題があり、教材文中には出ない語句についても定着のための配慮がされている。</p>	<p>○1年古典学習では、中学校での古典学習の系統が年表等で図解され、関心を持たせる工夫がされている。</p> <p>○QRコードを用いて音声・動画資料に速やかにアクセスでき学習効果の興味・関心を高めることができる。</p> <p>○「本の世界を広げよう」では、上白石萌音や又吉直樹など著名人が「私の一冊」として本を紹介し、読書の意欲を高める工夫がされている。</p>	<p>○「郷土ゆかりの作家・作品」(2年p.292)で各都道府県ゆかりの作家、作品が紹介されている。</p> <p>○貧困や技術革新、気候変動についてなどSDGsに関連するテーマを意識した教材が全学年を通じて取り上げられ、社会に目を向ける工夫がされている。</p> <p>○「読書生活を豊かに」では、図書の一部内容を掲載し、続きを図書本体へ促す工夫がされている。</p> <p>2年(p.84)では翻訳作品の読み比べを通して、読書生活が広がるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻頭に折込ページで「思考の地図」を掲載し、様々な場面で活用できる思考方法を紹介している。</p> <p>○情報の集め方、吟味、発信について「情報社会を生きる」「情報整理のレッスン」という単元名で3年間段階的に情報活用能力を身につけるようになっている。「本の世界を広げよう」(1年p.90)では、他教科に関わる本が紹介され、読書が他教科や生活全般に生きることを示唆している。</p> <p>○「語彙を豊かに」(1年p.300、2年p.296)では、豊かな表現の参考となる言葉を紹介している。</p> <p>○各学年「続けてみよう」として、心に残る言葉や興味ある出来事を書き留める方法を紹介し、生徒の自主学習につなげることができる。</p>	<p>○教材末の「学習の窓」では、文学、説明文等学習を通して身につけるポイントを、系統的に表し、かつ視覚的に分かりやすく示している。また、各学年「学習を広げる」で一覧として見通せるよう工夫されている。</p> <p>○1年生では巻頭で「言葉に出会うために」で、中学校国語学習に必要な音読、発表の仕方、ノートやメモの取り方など授業に向き合うための配慮がある。</p>
<p>○1年生はフォントが大きく、読みやすい。</p> <p>○巻末に「時を表す言葉」(1年)「色の名前」(2年)「季節の言葉」(3年)が掲載され、日本語の豊かさや美しさを感じられる表現が紹介されている。</p> <p>○各学年「季節のしおり」のページが配置され、四季にちなんだ俳句、短歌、詩歌を紹介し、日本の伝統文化への興味をもたせるものとなっている。</p>						

選 定 に 必 要 な 資 料

書写 No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○学習編は1年が43ページ、2年生は29ページ、3年生が33ページ。資料編は32ページ。</p> <p>○主な毛筆教材は1・2年が各5教材、3年生1教材となっている。硬筆は各学年に1教材ずつ古い教材を配置している。学年のページの中に「文字のいずみ」として書初めの教材があり、充実した内容になっている。</p>	<p>○基本単元は「見つけよう」で硬筆を使って導入、「書写のかぎ」でポイントを確認、「確かめよう」で毛筆で書き、「生かそう」で硬筆で他の文字を書いて応用し、「振り返って話そう」で対話による振り返りをするとめられている。(P14,36)</p> <p>○活用単元は「生活に広げよう」として、身近な活動や言語活動の具体例を多く示している。(P45,64)</p>	<p>○巻頭の「書写で学ぶこと」で生徒のよくある疑問や書写が役立つ場面がイラストで示され、書写を学ぶ意義を考え学習に向かうことができる。(P2)</p> <p>○オリジナルキャラクターのナビゲートや「とん・すー・ぴたっ」のキャラクターが親しみやすい。(P10)</p> <p>○「行書を書くときの動き」について、マンガを使って導入がしてあり、行書の特性を考えやすくなっている。(P30)</p> <p>○「見つけよう」で改善が必要な書字例を示され、生徒自身が改善点を考えることで課題への意欲が高まる工夫がされている。(P14、62)</p> <p>○「書写のかぎ」でポイントを明確に示している。このポイントを生かした振り返りや既習事項の確認もできるように工夫してある。</p>	<p>○活用単元「生活に広げよう」では、職場訪問や地域行事への参加などを題材に、書写で学習してきたことをどのように生かすかを考えるよう設定されている。(P75)</p> <p>○「文字のいずみ」の中で文字文化や文字の歴史について味わうことができる。</p> <p>○各学年末に「書初めをしよう」があり、「書いて味わおう」では古典作品が取り上げられ、また巻末には「二十四節気と季節の挨拶」が美しい行書で示されている。日本の伝統文化や季節感等を味わう工夫がされている。(P109,44)</p>	<p>○国語や他の教科の学習と連動する教材は「教科関連マーク」が付けられている。(P45)</p> <p>○二次元コードがあり、運筆を解説した動画や資料を活用して学習を進めることができる。</p> <p>○「まとめ」や「書写テスト」のページがあり、復習しやすい。(P24,25,38,39,54,55,70,71)</p> <p>○巻末の「書写活用ブック」の内容は、総合的な学習や学校図書館を使った学習など、目的に合わせた活用ができる。</p>	<p>○目標に向かって「見つけ→確かめ→生かし→振り返る」という流れを基本に構成されている。ポイントを「書写のかぎ」によって確かめられるように工夫してある。動画を用い、視覚に訴えながら指導することもできる。</p> <p>○判型がAB判と幅広く、見開きのページが生かされ、図版や資料が大きく見やすい。また、書き込み欄も多く設けられている。(P34,38)</p>
<p>○1年生の「小学校の学習を振り返ろう」(P5~13)、3年生の「文字のいずみ」(P94)で小中高の接続が円滑に行われるように配慮されている。</p> <p>○常用漢字表に加えて人名用漢字表も掲載されており、生徒が自分の名前を書くときに役立つ。</p>						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
F	<p>○学習編は1年が35ページ、2年生は21ページ、3年生が8ページ。資料編は46ページ。</p> <p>○主な毛筆教材は1年6教材、2年4教材、3年1教材。毛筆の後に書き込む形で硬筆の教材が配置されている。</p> <p>○本編で扱う毛筆教材の数は抑えられているが、補充教材で6種類が楷書行書で並べて示されている。(P110)</p> <p>○資料編の最後に「書き方を学ぼう」一覧として3年間の学習内容の要点をまとめてあり、一目で分かるように工夫されている。(P125～128)</p>	<p>○「基礎編」「本編」「資料編」の3部構成となっている。</p> <p>○各教材のはじめにある「目標」に向かって、「書き方を学ぼう」で書き方のポイントを大きく簡潔に示している。ポイントを意識して毛筆で書き、簡単な質問で振り返るといった構成が見開きで示されている。毛筆で学んだことを硬筆で繰り返し練習し、最後に振り返る構成となっている。(P42)</p> <p>○「書いて身につけよう」は様々なタイプの書き込み教材が多く設けられている。1, 2年では古典作品も取り上げられている。(P44)</p>	<p>○巻頭の「この教科書で学ぶ皆さんへ」では、「社会生活に生きる書写の力」を身につけるために「自分の字をよりよくする」ことができるよう螺旋的に学習していくということが明確に示してある。(P4)</p> <p>○「単元の基本構成」とそれを具体化した「学習の流れ」が見開きで簡潔に示されている。(P4,5)</p> <p>○「自分の文字を書き残そう」は氏名と学校名を1年・3年で書くようになっており、自分の成長を感じることができる工夫がしてある(P6)。</p>	<p>○「文字の変遷」や「身のまわりの文学」「書の古典」について写真やイラスト、図を効果的に用いて文字の歴史や文字文化の豊かさをわかりやすくまとめている。(P34,35,72,73,80)</p> <p>○社会で活躍する文字に関わる達人を取り上げ、文字文化の豊かさや、効果的に文字を書くことの必要性について考えることができるよう工夫されている。(P74)</p> <p>○「資料編」に、「日常の書式」として職場体験を例にした手紙の書き方や時候のあいさつなどがまとめてあり、学んだことが生活に生きるということが実感できる。(P82)</p>	<p>○振り返りの「書いて身につけよう」という学習で毛筆の学びを硬筆へとつなげる工夫がある。</p> <p>○アルファベットや数字、理科の用語の定義文など、横書きの練習ページがあり、他教科の学習や家庭学習へもつなげやすいものになっている。(P31)</p> <p>○「都道府県名」や「部分別行書一覧表」など生徒が調べて学べる資料がある。(P56,68)</p> <p>○二次元コードを読み取り「基礎編」毛筆硬筆について動画を閲覧できる。姿勢や持ち方が音声でわかりやすく解説されている。</p>	<p>○「社会生活に生きる書写の力」を身につけるために毛筆と硬筆の学習を関連付けながら見直しをもって学習できるように工夫されている。</p> <p>○「書き方のポイント」が各教材の冒頭でわかりやすく簡潔に示されている。さらに巻末に一覧になっており、学習したことが一目で分かる。</p>
	<p>○基礎編(P8)で毛筆・硬筆の姿勢や持ち方など基本的な内容について、「本編」の楷書教材(P14)で字形の整え方と筆使いについて、小学校の内容を確認できる。3年では発展として高等学校の学習内容が取り上げられており、小中高の接続が円滑にできるよう配慮されている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	<p>○学習編は1年が43ページ、2年生は31ページ、3年生が11ページ。資料編は44ページ。</p> <p>○主な毛筆教材が5教材、2年が4教材、3年2教材で補充教材も豊富。硬筆は各学年に古典や名文を取り入れている。</p> <p>○文字文化や日常生活の中の文字を紹介する内容を盛り込んでいる。</p>	<p>○「目標→考えよう→生かそう→振り返ろう」という学習の進め方で構成されている。</p> <p>○「学習の進め方」により学習手順が明確化されておりわかりやすい。中に話し合い活動のポイントも示され、対話的な学びの支援になっている。(P8)</p> <p>○「書写をとおして学んでいくこと」で、どんな力をするようにつけていくのかがイラストを使って説明しており、イメージがわかりやすい。(P10)</p> <p>○毛筆基本紙面は、右側の紙面で文字をよく見てから、左側の紙面で学習ステップを追いながらポイントを確認する流れが見開きで完結していて、わかりやすい。(P46)</p>	<p>○生徒の発言やキャラクターの発言を効果的に用いてポイントを分かりやすく整理している。</p> <p>○「目的に合わせて書こう」は、豊富なカラーイラストで中学校の書写との出会いにふさわしく、興味が高まる。(P4)</p>	<p>○「コラム」では書道の道具や文字文化の歴史、暮らしの中の文字などについて写真を効果的に用いて紹介している。</p> <p>○歴史上の人物の遺した文字や身のまわりで見られる書、松江城を含む各都道府県の城址など、多角的な視点での文字資料を紹介している。(P97)</p> <p>○本の帯やポップ、ポスターなど、図書館活用と連携した内容になっている。(P36,37)</p> <p>○学年ごとに「書き初めを書く」があり、手本・目標・振り返りが示されている。</p>	<p>○第1学年の初めに「学習内容を効果的にノートに書こう」として、縦書き、横書きのノートの例が示され各教科の学習に生かすことができる。(P12)</p> <p>○理科のレポートや英語のエアメール、情報の整理の仕方など、各教科や教科横断的な学習にも生かせるよう工夫されている。(P30,P105)</p> <p>○コラム「季節の行事と書写」や「書式の教室」では、学校生活、実社会で役立つ例が豊富に掲載され、生活に生かすことができる。(P100)</p> <p>○QRコードを読み取り、「まなびリンク」で教科書に掲載されている毛筆のポイント、運筆動画を見ることができる。</p>	<p>○AB判で教材が半紙形を維持しておりイメージを持ちやすい。</p> <p>○表紙は色使いや配置された絵巻など、落ち着いた印象である。</p> <p>○巻頭詩は小学校でもなじみ深い金子みすゞの詩が美しい楷書で書かれている。</p> <p>○全体的に写真資料やイラストが多く、親しみやすい内容であるとともに、手書き文字の良さを実感できる。</p>
	<p>○「書写テスト」で3年間の学習を確認することができる。(P108)</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
I	<p>○学習編は1年が27ページ、2年生は25ページ、3年生が16ページ。資料編は47ページ。</p> <p>○主な毛筆教材は1年が6教材、2年が5教材、3年2教材。硬筆は古典や名文の教材を各学年に3教材ずつ配置している。</p> <p>○書写ブック（27ページ）が取り外して使えるようになっており、毛筆での学びを硬筆に生かせるようになっている。</p>	<p>○「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という展開が基本的に見開きで、一目で分かるよう簡潔に示されており、見通しを持ちやすい。（P66）</p> <p>○目標と学習の振り返りが対応して設定されており、振り返りはチェックだけと簡便である。</p> <p>○毛筆の手本の右端に、朱書きが添えてあり、穂先の動きがわかる。</p> <p>○「三年間のまとめ」が見開きになっており、復習に使いやすい。（P100,101）</p>	<p>○単元の始まりには「やってみよう」という活動を設定し、楽しみながら学習の必然性を感じさせるものになっている。（P38,39,52,53）</p> <p>○テレビ番組のタイトルや人気スポーツ選手、漫画家など、生徒の興味や関心を高める例が紹介されている。（P84,85,105）</p>	<p>○「全国文字マップ」では、身の回りにある様々な文字に目を向ける工夫がされている。（P92～95）</p> <p>○「季節のしおり」では、国語の教科書に出てくる古文などが載せ関連させる工夫がある。</p> <p>○「文字の使い分け」や「コラムUD書体って何だろう」では、様々な書体を使い分ける視点を示し、文字に対する興味や意義を考えさせるものとなっている。（P96～99）</p>	<p>○教材一つ一つに二次元コードが示され、運筆だけでなく用具の準備や片付けも動画で見ることができる。</p> <p>○「学校生活」「国語」「日常生活に役立つ書式」という項目があり、書写で身につけたことを生かす場面が示されている。（P50,64,110）</p>	<p>○シンプルで分かりやすい紙面構成になっている。</p> <p>○取り外して使える書写ブックに書き込むことができるので毛筆の学習を硬筆の学習へとつなげられる。</p>
<p>○行書の基本的な書き方を学ぶ教材では、半紙原寸大で3教材掲載されている。</p> <p>○「中学生のための漢字字典」では、常用漢字表、人名用漢字表で楷書行書が掲載され、名前の書き方も示されている。</p> <p>○巻頭の「学習のはじめに」で、小学校の学習の確認ができる。また、巻末の発展「なりきり、書聖・王羲之」で高校芸術の書道への接続が図られている。（P32～35,157）</p>						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への工夫等	4.教科の特性、地域の実態等への適合	5.発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○「読み取る」「集める」「まとめる」で学習課題が示されており、つけさせたい力が明確に示されている。(p10)</p> <p>○「スキル・アップ」でグラフの読み取りなど資料の読み取り方の道筋が丁寧に示されている。(p37)</p>	<p>○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」において、各節ごとに探求課題、1時間ごとに「学習課題」が示されており、単元を通して課題を追究できる構成の工夫がなされている。(p59)</p> <p>○単元ごとに「基礎・基本のまとめ」「まとめの活動」が示されており、言語活動の充実を図る工夫がなされている。(p72)</p>	<p>○写真の量が豊富であり、生徒の興味・関心をひきつけやすい工夫がなされている。(p24)</p> <p>○多くの資料やグラフが示されており、生徒が読み取ったり、比較したり主体的に取り組める工夫がなされている。(p186)</p> <p>○QRコードでICTを活用した授業が可能になっている。(p26)</p>	<p>○「日本の諸地域」の「中国・四国地方」において、浜田自動車道が開通したことにより、人の行き来が盛んになったことが紹介されている。(p200)</p> <p>○「領土問題を抱える島々」の学習では、竹島について、位置や写真が掲載されており、詳しく説明もされている。(p26)</p>	<p>○「トライ」で発展的な学習課題が示されている。(p11)</p> <p>○「地理にアクセス」などで補足の説明がされており、家庭で学習する上で使いやすいものになっている。(p39)</p> <p>○「スキル・アップ」において、内容が多く記載され、基礎的基本的な内容を生徒が身につけられるよう工夫されている。</p>	<p>○それぞれの単元の構成が「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」「まとめる」の構成になっており、単元を貫く問を立て、追究し、解決を図っていく課題解決型の授業の構成が行いやすい構成になっている。</p> <p>○中国・四国地方の抱える課題について前向きな記述が多くみられる。</p>
	<p>○各単元のはじめに「小学校の社会で習ったことば」が示されており、小学校での既習事項がわかる工夫がなされている。(p6)</p> <p>○適当な分量であり、生徒が学習しやすい内容の構成になっている。</p>					
J	<p>○巻頭の「教科書の学習のしかた」の内容では、主体的な学びや対話的な学びについて分かりやすく記述してある。(巻頭5・巻頭6)</p> <p>○本文中の関連資料がすぐに探せるように配慮してある(p4・5)</p> <p>○本文の内容が詳しく生徒が読みやすいように工夫がなされている。</p>	<p>○1時間の学習の中で、「確認しよう」や「説明しよう」の項目を設定し、まとめがしやすい工夫がなされている。</p> <p>○地図やグラフが多く記載されていて、詳しく学習できる構成になっている。</p>	<p>○分かりにくい用語の解説が詳しく説明してある。(p9など)</p> <p>○生徒が学習課題を追求する際、手助けとなる資料が多く載っている。</p> <p>○各章の導入ページにQRコードがあり、ICT活用がしやすいように工夫がなされている。</p>	<p>○日本の領域と特色では、竹島について本文記述があり、写真や地図が掲載されていて、2月2日が「竹島の日」であることが記述されている。(p20 21)</p> <p>○出雲大社や石見神楽の写真が掲載されている(p198)</p> <p>○島根県を訪れる観光客数の変化がグラフになって掲載されている。(p198)</p>	<p>○「技能をみがく」の内容が多く記載され、基礎的な技能が身につけられる工夫がなされている。(p9)</p> <p>○家庭学習に使えるQRコードがたくさん載っている。</p>	<p>○地図資料が全体的に多く掲載されている。</p> <p>○島根県の過疎化への取組や観光客誘致の工夫などが記述されている。(p198 p199)</p> <p>○「地理的な見方・考え方」がきちんとできるように流れがはっきり分かるようにしてある。(p185など)</p> <p>○日本の諸地域の内容が非常に詳しく記述しており、より詳細に学習することができる。</p>
	<p>○本文記述が詳しく内容も分かりやすい。</p> <p>○各節の学習の振り返りがきちんとできるような工夫がなされている。</p> <p>○中国・四国地方の学習の視点を「交通・通信」とし、工業地帯は4工業地帯(京浜・中京・阪神・北九州)で捉えている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	<p>○写真や資料が大きく、見開きの内容構成が比較的統一されているので、発達段階に応じた学習しやすい内容になっている。(p72,73)</p> <p>○「読み解こう」は、思考力や技能を育成するうえで効果的であるといえる。(p89)</p>	<p>○自然と農業を関連づけ、人々の生産の工夫につなげるなど、課題解決的な学びに工夫が見られる。(p246,p254)</p> <p>○節末の「地域から世界を考えよう」や「現代日本の課題を考えよう」は、言語表現や意見交流に有効であり、節の振り返りにも効果的である。(p116)</p>	<p>○見開き左上の写真や地図をもとに、生徒キャラクターが「なぜ、どうして」と問い、考えやすくなっている。(p240)</p> <p>○人々の生活や文化について多く取り上げ、身近な内容から興味・関心を抱くような工夫がなされている。(p248)</p>	<p>○「三江線廃止」の内容が写真資料として掲載され、過疎化の課題について考えるとともに、「地域おこし協力隊」の話題も紹介されている。(p194)</p> <p>○「石見空港」について、路線維持と空港維持について紹介されている。(p199)</p>	<p>○「日本と韓国の交流について調べよう」といった家庭で自主学習できる工夫が見られる。(p53)</p> <p>○「緯、経、子、午の意味を国語辞典で調べよう」等、各教科との関連が図られている。(p13)</p> <p>○地域課題について話し合い、文章にまとめるといった作業が設定されている。(p274)</p>	<p>○基礎的、基本的な内容を重視し、資料や統計等が盛りだくさんとならないよう、精選された構成となっている。</p> <p>○本文に太字を多く取り入れ、キーワードとして基礎的内容を理解できるよう構成されている。</p> <p>○写真資料に人々が数多く登場し、生活や文化に視点をおいた学習が進められるよう構成されている。</p>
O	<p>○大きめな字とすっきりとした内容構成により、焦点をしばった学習が展開できる。(p76,77)</p> <p>○「深めよう」について考えることで、本時の振り返りに活用でき、学習内容を大観的にとらえることができる。(p77)</p>	<p>○防災を視点に、その解決に向けた取組を考えることで、今日的課題に関心が抱けるような工夫がなされている。(p230)</p> <p>○「見方・考え方」は、学習課題をさらに深めるために効果的であり、思考力の育成につなげることができる。(p110)</p>	<p>○「確認」は、教科書の記事や資料をヒントにまとめることができるようになっており、自主的な学びが促進できる。また、本時の振り返りも効果的に行うことができる。(p103)</p> <p>○生徒にとって関心を抱くような写真を採用している。(p90)</p>	<p>○「出張竹島展」の写真が掲載され、県民のための取組が紹介されている。(p19)</p> <p>○海士町の「島留学」を通じた地域活性化が紹介され、魅力づくりについて考える工夫がなされている。(p188)</p> <p>○地域の問題点ばかりではなく、「社会が変化しつつある」や「高く評価できる取組」といったまとめ方をされている。(p187)</p>	<p>○「地理+α」は、身近な話題や時事、社会事象と関連した内容が網羅されており、授業と日常の連鎖が期待できる。また、コリアタウンの紹介は、修学旅行と関連づけることもできる。(p199)</p> <p>○「チャレンジ地理」は発展的学習に対応できるといえる。(p151)</p>	<p>○人々の努力で地域課題を解決しようとする取組が、全体を通して数多く紹介されており、生徒の課題解決的学習につながりやすい構成となっている。</p> <p>○本文の文章は一文が短く、読みやすく端的で、わかりやすい内容となっている。</p> <p>○地形地図と人口密度の地図を並べて掲載し、人口問題や交通網にも視点をあてている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史的分野）No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○内容、分量ともに適当であり、分かりやすい表現となっている。</p> <p>○写真だけでなく地図が豊富に使用されており、地理的分野と関連させたり地図を読み取る力を高めたりする工夫がなされている。</p> <p>○「スキル・アップ」では複数の資料を読み取り、そこから当時の状況を考えさせる場面を設定するなど、未知の状況にも対応できる思考力や判断力を育成する工夫がみられる。</p>	<p>○単元タイトルの横には「学習課題」として、その時間の学習のポイントが分かりやすく示されている。</p> <p>○「見方・考え方」や「みんなでチャレンジ」では、資料からなぜそのようなのか考えさせたり、既習事項と比較してグループで話し合わせたりする場面を設定し、問題解決的な学習や言語活動が充実するような工夫がされている。</p> <p>○単元を貫く課題として「探求課題」が示されており、単元のまとまりを意識した授業を展開しやすい。</p>	<p>○写真、図表が多用されておりそれぞれのレイアウトが見やすい。</p> <p>○古代では模型や想像図を多用し、生徒に着目させた部分が焦点化されている。</p> <p>○章の始めの「導入活動」では、年表が示されており、そこには小学校で学習した人物や事象をイラストで掲載するなど、見ただけで分かるような工夫がされている。</p>	<p>○島根県に関する資料や事象が随所に扱われている。「現代に生きる神話」(p54)では、佐陀神能の写真を掲載し、出雲神話について詳しく紹介している。また、p180の「領土をめぐる問題の背景」では、写真や地図を使って、竹島の歴史について具体的に記述されている。さらに、森鷗外が写真付きで扱われ、「舞姫」「最後の一句」の冒頭部分が紹介されている。(p197)石見銀山については、石見銀山がのったヨーロッパの古地図を使って、世界経済への影響力の大きさについて記述されている。(p85)</p> <p>○同和問題学習については、各時代で適切に扱われている。その中でもp240～241の見開きを使って取り上げられている「解放令」から水平社への内容は、特に詳しい内容となっている。</p>	<p>○Dマークがおおよそ10か所あり、このマークがある箇所は二次元コードを読み込むことで、インターネットを使った学習ができるよう工夫されている。</p> <p>○章末のまとめをするページでは、「くらげチャート」「Xチャート」などを紹介し、思考力、判断力、表現力を育成すると同時に、生徒がより簡単に分かりやすくまとめができるように工夫されている。</p> <p>○章末の「基礎・基本のまとめ」では、学習した内容をテスト形式で確認できるようになっており、生徒の自学自習に活用しやすい。</p>	<p>○内容や使用されている資料など、全体的にバランスのとれた印象を受ける。</p> <p>○図表や写真の印刷、字体、紙面の配色などが落ち着いている。</p> <p>○章末の「まとめ活動」では、これまでにない思考ツールが提案されており、他教科や総合的な学習の時間のまとめにも活用できる。</p>
G	<p>○AB判を生かし、鮮明で大きな資料や写真が多用されているほか、重要語句の文字と他の文章の文字とのコントラストがしっかりつけられており、たいへん見やすい。</p> <p>○「歴史の技」では、地図や系図から歴史的事象を読み取らせる工夫が見られたり、「表現！」では、指定の用語を使って学習した内容を説明させたりする工夫がみられる。</p>	<p>○各章末の「学習のまとめと表現」をはじめ、随所に言語活動の充実を図る工夫がなされている。</p> <p>○江戸時代の幕府の諸改革については、それぞれの改革を連続したページで扱っており、生徒が関連付けたり比較したりしやすくなっている。</p>	<p>○単元のタイトルは「あつく三法を敬え」「祇園精舎の鐘の声」など、その単元で扱う代表的な資料などからとったものが多く、生徒の興味や関心を高める工夫がなされている。</p> <p>○各省の始めには「学習を始めよう」として、大きな絵や資料から当時の人々の生活や出来事を読み取らせるなど、学習意欲を高める工夫がなされている。</p>	<p>○島根県に関する資料や事象が随所に扱われている。「銀で結びつく世界」(p106)では、石見銀山について、佐摩村という地名から「ソーマ銀」とよばれたという経緯が紹介されるなど、詳しく説明されている。また、「神話に見る古代の人々の信仰」(p54～55)では、出雲大社や神楽の写真を使用されている。さらに、p268をはじめ、近現代において領土に関する内容を扱った部分では、竹島に関する記述が多くみられる。</p> <p>○同和問題学習については、各時代で適切に扱われている。特に、江戸時代の洪染一揆は、発展的な学習として詳しく紹介されている。</p>	<p>○各章の最初に二次元コードが示されており、アクセスしてみるとその省の内容に関する情報が掲載されているウェブサイトへのリンクページにつながる。これは、生徒の調べ学習や家庭学習に活用しやすいと工夫といえる。</p> <p>○章末には「歴史を探ろう」で発展的な学習を、「学習のまとめと表現」で学習のまとめを生徒が自ら学習しやすい工夫がみられる。</p>	<p>○見やすい文字、大きく鮮明な写真や資料を使用している。</p> <p>○工夫された単元名など随所に生徒の興味や関心を高める工夫がなされている。</p> <p>○「キーワード」や「確認！」によって、基礎基本の定着を図りやすくする工夫がある。○省の始めと終わりには、二次元コードや「学習のまとめ」など、生徒が自学自習できる工夫が多い。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史的分野）No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
J	<p>○内容、分量とも適当であり、すべての生徒が読み取りやすい表現となっている。毎時間学習の内容の振り返りができ知識習得の工夫がある。</p> <p>○「技能をみがく」コーナーが設置しており、「技能」習得の工夫がある。</p> <p>○章末に時代の特色を3段階のステップで説明するコーナーがあり、「思考力・判断力・表現力」の育成の工夫がある。</p>	<p>○章ごと、時間ごとに学習課題が明示されており、学習内容の見通しと振り返りがしやすい構造になっている。</p> <p>○「説明しよう」という形で言語活動の充実を図る工夫がなされている。</p> <p>○特設ページを設け様々な立場の人々の見方を示す資料や地域の視点、未来の視点を盛り込んだ資料で多面的・多角的な考察を深める工夫がなされている。</p>	<p>○節の冒頭の「タイムトラベル」でイラストと右上の「小学校で学んだ主な出来事」の年表で学習内容にスムーズに入れるような工夫がある。</p> <p>○見開き左上に1時間ごとの導入資料が設けられ、学習への意欲喚起になっている。</p> <p>○本文ページ下段に「小学校・地理・公民との関連」コーナーが設けられ関連・接続ができる。</p>	<p>○特設ページ「歴史を探ろう」で、地域の視点から歴史的事象を考察する工夫がある。</p> <p>○島根県に関する記載が随所に見られる。（荒神谷遺跡、西谷3号墓、石見神楽、石見銀山、竹島）石見神楽・石見銀山・についてはコラムでさらに発展的な内容での記述がある。竹島については特設で発展的、今日的な課題に関する記述がなされている。</p> <p>○コラム「未来に向けて○○」が10カ所設置され今日的な課題への対応がなされている。</p>	<p>○3カ所設置された「多面的・多角的に考えてみよう」では、協働的な学びで学習を深められるようになっている。</p> <p>○冒頭の部分で「学習のしかた」が掲載されており自学自習がしやすいようになっている。</p> <p>○二次元コードが記載されており、学習内容に関連する動画や「章の学習を振り返ろう」の回答などが閲覧でき、タブレットやPCを使って自学自習しやすい。</p>	<p>○各章の導入の「タイムトラベル」では、生徒の興味・関心を喚起させるとともに前後の時代と比較ができるよう工夫されている。</p> <p>○章末には時代の特色を3段階のステップで説明するコーナーがあり、年表や図表を使って課題に対する自分の考えをまとめ、友達との対話を通じて各時代を大観できるように構成されている。</p> <p>○日本の歴史を様々な視点から考えられる教科書である。</p>
M	<p>○内容、分量とも適当であり本文はわかりやすい表現がなされている。</p> <p>○歴史的事象が文章で詳しく説明され、各ページに用語解説があり、知識習得の工夫がなされている。</p> <p>○章末にまとめのワークシートがあり、学習の内容の振り返りができ、知識習得の工夫がある。</p>	<p>○学習課題が把握しやすいように小単元のタイトル下に示されている。</p> <p>○章の冒頭に日本史・世界史並列の年表を配置し、見開き1ページにその単元の時代背景や状況、その後の影響の記述があり、歴史の流れを把握しやすい。</p> <p>○資料の半数近くに見方を促す発問がついており、多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。</p>	<p>○見開き左上に1時間ごとの導入資料が設けられ、学習への意欲喚起になっている。</p> <p>○各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介するなど、興味・関心喚起の工夫がなされている。</p> <p>○コラム「地域からのアプローチ」ではその時代と関連のある史跡や特産品について紹介されており、生徒の興味・関心を喚起するための工夫がなされている。</p>	<p>○特設ページ「地域からのアプローチ」で、地域の視点から歴史的事象を考察する工夫がある。</p> <p>○島根県に関する記載がみられる。冒頭の日本の世界遺産のページで石見銀山についての写真と記述。近世「ヨーロッパ人との出会い」のページで石見銀山の古地図と記述。「歴史へのアプローチ⑩」日本の領土の変遷のページで竹島についての地図と記述がある。</p> <p>○第7章現代の日本と世界の「ステップアップ」で今日的な課題を取り上げ考察できるようにしている。</p>	<p>○1時間ごとに課題「ステップアップ」があり、学習を発展的に進める工夫がある。</p> <p>○特設「歴史へのアプローチ」で発展的な学習を進める工夫がなされている。</p> <p>○二次元コードが記載されており、学習内容に関連する動画が閲覧でき、タブレットやPCを使って自学自習しやすい。</p>	<p>○各章の導入で日本史・世界史並列の年表を配置し、見開き1ページに、時代背景や状況、その後の影響を記述して歴史の流れを把握しやすい。</p> <p>○各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介するページがあり、地理的な背景や状況も把握しやすい工夫がある。</p> <p>○世界を含めた歴史全体の流れをつかむのに優れた教科書である。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（歴史的分野）No. 3

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
0	<p>○内容、分量とも適当である。</p> <p>○テーマ別・人名・事項ごとの索引がある。</p> <p>○「学習の整理と活用」が各編末に設けてあり、基礎的な事項について振り返ることができる。</p>	<p>○6編構成で、見開きの右側のページに時代区分があり、流れをつかみやすい。</p> <p>○毎時間、「学習課題」「小学校との連携コーナー」があり、内容に応じて、「見方・考え方」「深めよう」の学習を深めるポイントが示してある。</p>	<p>○「チャレンジ歴史」「アクティビティ」として、各編に歴史を深く学ぶ特設ページがある。</p> <p>○写真や図が大きくわかりやすく、見るポイントが示してある。人物の写真が多く、イメージがわかりやすい。</p> <p>○文章資料の字が大きく、ふりがながある。</p>	<p>○島根県関連 アマテラス、津和野の鷲舞、阿国、石見銀山、銀の輸送路、竹島問題</p> <p>○見方・考え方として、比較・推移・つながりといった歴史を学ぶ視点が示されている。</p> <p>○地図が多く、国際的な視点をもちやすい。</p>	<p>○「先人に学ぶ」「女性史コラム」などがあり、発展的学習のヒントにすることができる。</p> <p>○「基本用語」、「スキルup」などのコーナーがあり、基礎的な事項や技能についての学習を自分で取り組むことができる。</p>	<p>○発展的な内容を扱うページが多い。歴史を学ぶ意義や生き方について、多く扱われている。</p> <p>○人権・同和問題に関する記述がていねいである。</p>
R	<p>○内容、分量とも適当である。</p> <p>○人名・事項ごとの索引がある。</p> <p>○黒太字が多く、わかりやすい文章で書かれている。</p> <p>○文章資料の量が多い。文字が大きくふりがなもあり、読み取るポイントが多く示されている。</p>	<p>○6章構成で、見開きで学習課題が設定されており、まとめとして言語活動が行えるようになっている。</p> <p>○各章に、「なでしこ日本史」という女性に視点をあてたコーナーがある。</p>	<p>○小学校の人物学習との関連から学習がスタートしている。</p> <p>○「虫の目で見る」「鳥の目で見る」など生徒の興味を引く視点が設定されている。</p> <p>○「このころ世界は」のコーナーがあり、外国と日本の接点について考えることができる。</p>	<p>○島根県関連 出雲大社、スサノオ、阿国、石見銀山、竹島、荒神谷遺跡</p> <p>○「私の歴史博物館をデザインしてみよう」のコーナーがあり、人々の生活や文化の学習への取組を促すことができる。</p>	<p>○調べ学習の方法が、各章に設定されている。</p> <p>○「歴史のターニングポイント」「歴史にズームイン」など深めたり、広げたりする学習が設定されている。</p> <p>・章末の「学習のまとめ」で基礎の確認ができる。</p>	<p>○調べ方についてふれたり、発展的な内容を扱ったりするページが多い。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐむ要素)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が見開きページで終わるようになっていいる。また用語解説が充実している。 ・上部にまとめて、図版や資料が見やすく構成されている。 ・社会科の他の分野との関連がマークを用い、わかりやすく示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で習った語句が章の頭にまとめられている。 ・章末に探求のステップで、単元の課題解決に取り組めるようになっている。また、基礎・基本のまとめが設けられている。 ・学習課題を始めに示し、学習内容の「チェック」そして言語活動を充実できるように「トライ」が設けられ、学習に取り組みやすい構成である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章のはじめに、イラストを用い、導入として「話し合い活動」の見開きのページが示されている。 ・二次元コードを用いて、社会科の既習内容や選挙などシミュレーションができるコンテンツが充実している。 ・「18歳へのステップ」を選挙および契約のところで、関心を高めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島について、本文のコラムの中で写真や島根県の新聞などを資料に用いて、島根県の「竹島の日」制定について記述されている。 ・「みんなでチャレンジ」というコラムで課題追及学習につながる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードをもちいて他教科との関連がわかるコンテンツが開設されている。 ・見開きページごとの「チェック」「トライ」や特設ページの「もっと公民」で発展的に学習を進めていくための工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動や発展的に学習を進めていけるように工夫されている ・優しい色、照り返しの少ない紙面・マークで色覚特性がある生徒にも判別できるようにしている。 ・二次元コードで地理・歴史および他の教科と関連づけて学習ができるようになっている。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な内容が網羅されており、また全体的に文章表記も平易で読みやすい。 ・「公民にアプローチ」では情報活用の仕方が示され、「公民の技」では公民学習で身に付けたい技能や表現がなされている 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の既習内容・地理・歴史の内容・SDGSとの関連が教科書のページ下に書かれている。 ・「章のはじめに」「学習の見通し」で系統立てて、学習に取り組める。 ・章末のまとめではステップ1・2・3で三段階の課題で振り返る構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく見やすいグラフを多用し、資料活用能力を高める工夫がされている。 ・二次元コードを用いて、内閣府や外務省のサイトにつながるようリンクされている。 ・生徒と同じような疑問を投げかけるキャラクターが設定され、課題解決学習に取り組みやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島についての記述は、本文と地図と写真によってなされている。 ・働く意義について大田市の身近な企業を例に紹介している。 ・県内の「コウノトリの放鳥」についての記事が巻末資料で取り上げてある。 ・「深く読んで考えよう」コラムで今日的な課題について考える工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の終わりに「学習のまとめと表現」で家庭学習・発展学習に取り組みやすいように工夫されている。 ・コラム「公民の技」で自ら発展的に学習に取り組める工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で学ぶ意欲を支援するために教科書の使い方、ノートのとりがきちんと説明されている。 ・「学習のまとめと表現」で家庭学習・発展学習に取り組みやすいよう工夫されている。 ・教科書全体がSDGSと関連させて構成されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
J	<p>・写真資料が多く記載され、用語解説が充実している。</p> <p>・「技能を磨く」というコラムで資料活用や表現する能力を高める工夫がなされている。</p>	<p>・「学習の前に」という導入が、本文の中で再度関連付けられて、理解を深められる。</p> <p>・小学校の既習内容・地理・歴史の内容との関連が教科書のページ下に書かれている。</p> <p>・学習課題を始めに示し、学習内容の「確認しよう」で確認、そして言語活動を充実できるように「説明しよう」が設けられ、学習に取り組みやすい構成である。</p>	<p>・「先輩たちの選択」コラムで「人」にクローズアップし、コンテンツの中では、動画を見ることができるようになっている。</p> <p>・「学習の前に」という項目でイラストによって視覚的に簡潔に今から何を勉強すべきか興味が高まるような話し合いができる導入がなされている。</p>	<p>・竹島の記述は、本文中と注釈によってなされている。李承晩ラインについて本文中に記述されている。</p> <p>・「公民+」で今日的課題を追究する学習ができるように工夫されている。</p>	<p>・二次元コードを用いて、章末の学習の解答ができるまで家庭学習ができるよう工夫されている。</p> <p>・よりよい社会を目指すために、「アクティブ公民」のコラムで学習内容を深め、発展的学習ができるよう工夫されている。</p>	<p>・各部に設けられたイラストやコラムなど、学習に対して興味関心を高める工夫がなされている。</p> <p>・二次元コードを用いて、家庭学習ができるように工夫されている。</p>
O	<p>・見やすい学習課題・見方・考え方・確認と構成がわかりやすい。</p> <p>・巻末に地図・年表があり、生徒が確認しやすいよう配慮されている。</p>	<p>・シンキングツールで話し合い活動の手立てとなるチャートや表が紹介されている。</p> <p>・小学校の既習内容・地理・歴史の内容・SDGsとの関連が教科書のページ下に書かれている。</p> <p>・「チャレンジ公民」では言語活動ができるような工夫がなされている。</p>	<p>・バリアフリー社会の学習で本物の点字が使用されている。</p> <p>・マンガやイラストが多く、生徒にとって興味が多く構成になっている。</p> <p>・二次元コードを用いて関連する動画やサイト、チャレンジ公民のワークシートを活用できるようになっている。</p>	<p>・竹島については本文とコラムで扱っており、「竹島資料館」の写真が掲載されている。</p> <p>・参政権の保障のため浜田市の移動期日前投票所の取り組みの写真が掲載されている。</p>	<p>・「アクティビティ」では主体的・対話的な問いや活動を示すコーナーが設けられている。</p> <p>・「公民+α」で学習内容を深めていけるよう工夫されている。</p> <p>・「明日にむかって」というページで社会に参画するための手立てが書かれている。</p>	<p>・単元のまとめでは様々な思考ツールで技能や思考力、判断力・表現力を身に付けることができるよう配慮されている。</p> <p>・二次元コードで関連する動画やサイトで学習が深められるようになっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
Q	<p>・見開きページあたりの写真や資料が、精選され大きく掲載されている。用語や文章は、そのページの側注で解説がなされている。</p>	<p>・見開きページには学習のきっかけや学習後には「ここがポイント」として内容のまとめが簡潔に示されている。 ・巻末の「学習のまとめと発展」では、重要語句を確認し、字数制限をつけて課題をまとめるなど学習を振り返る工夫がされている。</p>	<p>・「ミニ知識」や「もっと知りたい」で学習に関連した内容について資料をもとに解説することで興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・学習を深めるために、内容に関連した歴史上の人物や著名人が写真や説明で取り上げられている。</p>	<p>・竹島問題について本文中だけでなく、1ページにわたる特設を設け、竹島問題の経緯や国際司法裁判所への提訴についても記述されている。 ・2016参議院選挙から合区が採用されたことと特定枠について側注解説で扱い、より良い選挙制度について問題提起している。</p>	<p>・「やってみよう」「アクティブに深めよう」ではそのまま教科書に書き込みができるワークシートになっている。 ・終章では、卒業論文やディベートについての記載があり、実践例も示し、取り組みやすいよう工夫されている。</p>	<p>・日本の技術や伝統・文化について紹介され、本文の内容に関連した歴史上の人物や著名人が写真や説明で取り上げられている。 ・「アクティブに深めよう」では話し合い学習に取り組めるよう課題が設定されている。</p>
R	<p>・図表・写真等の資料が多く掲載されており、グラフも見てわかりやすい工夫がされている。 ・「スキルアップ」ではディベートや思考ツールを用いた情報の整理など公民学習の基礎的な技能が身につけられるように配慮している。</p>	<p>・章のはじめにある「入り口」で、その章を貫く課題に取り組み、章末「これから」では章で学んできた内容を生かして取り組む課題が設定されている。 ・毎時間の学習のまとめでは、学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明したりすることで学習を深めたりできるよう工夫されている。</p>	<p>・章のはじめにある「入り口」では、課題を考えたり話しあったりすることで、興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・学習内容に関連した情報をマークを用いて提供している。 ・「学習を深めよう」では本文で説明したことをより詳しく説明し、学習内容を深める工夫がなされている。</p>	<p>・竹島問題について、特設ページを設け、竹島に関する歴史的経緯や、「干山島」をめぐる日本と韓国の主張を韓国での地図を交えて掲載されている。 ・人権問題については「学習を深めよう」を用いてしっかりと取り扱っている。</p>	<p>・「やってみよう」「TRY！」の作業や話し合い活動を通して、本文の学習が深められるよう工夫されている。 ・最終の「社会科のまとめ」では持続可能な社会を築く観点から、内閣総理大臣として政策提案のレポート作成を例示している。</p>	<p>・「やってみよう」「TRY！」の作業や話し合い活動を通して、本文の学習が深められるよう工夫されている。 ・「学習を深めよう」という特設コーナーでは日本の習慣などを取り上げ、日本の良さに気付くように工夫されている。 ・また人権にかかわる内容も詳しく記載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

地図 No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<ul style="list-style-type: none"> 各項目ごとに歴史的資料やテーマ資料があり、資料活用の面から思考力や判断力を高めることが可能である。 豊富なデータ(資料)があり、分量的には十分である。 SDGsなど公民の内容など最初に掲載することで学習の方向性を意識したつくりとなっている。(p.7-8) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ジャンプ」の項目が設けられ、他の項目と関連づけて、多面的・多角的に思考を深める工夫がされている。(p.32,56) テーマ資料の統一性が見られ、単元の配列を工夫することで、子どもたちの学習の手助けとなっている。(p.94,151) 	<ul style="list-style-type: none"> 関連写真が豊富で、興味・関心を高める工夫がされている。 教科書サイズであり、持ち運びに便利である。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の産品と名所・お国自慢等が記載され、都道府県の学習に興味をもって取り組むことができる。(p.165,188) 地域の実態に即したテーマ・資料構成になっており、地域の課題を捉えやすい。 島根県などイラストを交えることで特産物や歴史的な史跡を分かりやすく紹介している。竹島や尖閣諸島などの写真を掲載し、領土問題への意識を高める工夫をしている。(p.97,190) 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsのページを活用し、歴史的な分野や公民的分野を踏まえて、現代社会の課題について学習を進めることができる。(p.7-8) テーマに沿っているため、グループ学習などの協調学習に活用しやすい。(各テーマ資料) 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な歴史や公民資料も掲載されており、三分野との関連をはかり、3年間を見通した活用ができるよう配慮されている。(p.36,39,40,95,96,131) 各単元がテーマごとに構成され、課題解決学習に適したものとなっている。(各テーマ資料)
J	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図に同緯度同経度の日本の位置が記載されており、生徒の思考力を高め位置関係を理解しやすいものとなっている。(p.41,45,48,57,58,60,66,67,73) 各地域の断面図や標高・水深が紹介してあり土地利用の様子などを考えさせることができる。(p.62,109) 	<ul style="list-style-type: none"> 「地図活用」「読図の視点」が設けてあり、地図を見る視点や技能とともに思考を深めることができる。(p.30,101) 統計資料の数字が色分けしてあり、読み取りやすい。(p.166-173) 地図の見方を丁寧に説明している。(p.5-8) 	<ul style="list-style-type: none"> B版で、見やすく、それぞれの地図中にもイラストが掲載され、興味・関心を引くものとなっている。 鳥瞰図が多く用いられて、立体的にとらえることができるよう工夫されている。(p.61) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特徴を網羅的に学習できるような様々な視点からの資料が取り扱われている。(p.49-53) 島根県などイラストを交えることで特産物や歴史的な史跡を分かりやすく紹介している。(p.89-90) 竹島や尖閣諸島などの写真や北方領土の変遷を記載し、領土問題への意識を高める工夫がなされている。(p.30,80,89,142,187) 	<ul style="list-style-type: none"> QRコードが掲載されており、各自必要な情報を得ながら、それぞれの単元で自ら課題を見つけ学習に活用することができる。(p.5,67,167) 日本の各地域で防災を視点とした資料を取り上げ、地域の実態から生活を意識化することができる。(p.88,96,115) 	<ul style="list-style-type: none"> 地図に親しみながら感性を育むための資料や情報が精選されており、全体として視覚的で見やすく読みやすい工夫がなされている。(p.21-22,25-26,123-124) 地図を活用する技能を高める資料がバランスよく配置され、生徒の力を高めることができる。(p.47,92)

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 科 No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○例題の横に確認事項が載せてあり、既習事項等を確認しながら考えることができる。(1年P107)</p> <p>○大事なことがカード表示になっていて、押さえるポイントがわかりやすい。</p>	<p>○方程式の解き方を、様々な方法で示し、多様な考え方を引き出す工夫がある。(1年P99)</p> <p>○関数において、表・式・グラフのつながりがわかりやすくまとめている。(2年P70)</p>	<p>○章の最初には、身近な場面がイラストで提示されたり、キャラクターの会話、疑問などを吹き出しで表現されており、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。</p> <p>○導入部分だけでなく、教科書全体的に吹き出しやイラストを使ってあり、興味をもてる工夫がされている。</p>	<p>○学びを広げようでは、社会で数学を活用している人を紹介し、学んだことがどのように使われているか考える課題が設定してある。(2年P90)</p> <p>○節のまとめでは、問題の横にふりかえる内容を示すページが書いてあり、学び直しがしやすい工夫がされている。(3年P30)</p>	<p>○数学の自由研究では、数学の歴史や他教科との関わりがわかる教材がのせてある。(1年P251)</p> <p>○問の横に、補充問題(類題)のページが書いてあり、家庭での復習に使いやすい。(3年P89問3)</p>	<p>○大切にしたい数学の学び方(1年P6)で、問題発見、解決の過程をわかりやすく提示し、章末の利用問題では、その流れで主体的・対話的な学習ができるよう工夫されている。(1年P25)</p> <p>○章の問題Bでは、日常生活に関連した活用問題があり、学んだことが様々な場面で活用できることを実感できる工夫がされている。(2年P164)</p>
	○バーコードリーダーが載せてあり、簡単にネットにアクセスできる。					
B	<p>○まとめとともに、具体例も載せてあり、理解がしやすい。</p> <p>○問の横に、「プラス1」として難易度の高い問題があったり、補充問題のページが載せてあったり、生徒の理解度にあわせて演習ができる。(1年P49)</p>	<p>○関数において、表・式・グラフがどのように繋がっているか理解しやすい構成になっている。(2年P80)</p> <p>○高校との繋がりを意識した課題が載せてある。(1年P189)</p> <p>○6人のキャラクターが、対話をとおして学習している様子があり、対話的な学習につなげやすい。</p>	<p>○「MATHFUL」という読み物があり、興味関心を高める工夫がある。また、他教科との関連がわかりやすい。</p> <p>○導入部分でスポーツや身近な題材など、生徒が興味を持てる話題が使っている。(1年P124、2年P66)</p>	<p>○図形分野で、具体例として身近なものの絵や写真が多くあり、自分の体験と重ね合わせて考えることができる。</p> <p>○たしかめようでは、問題と節で学習した内容が併記してあり、ふりかえりがしやすい工夫がされている。(1年P58)</p>	<p>○文字の意味を、英単語をのせて解説している。(1年P174)</p> <p>○「社会にリンク」というページで、社会に出てからどんな場面で学習したことを活かせるかを考えることができる。(2年P97)</p>	<p>○最初に示されている学習の進め方にそって各章の利用問題が設定しており、主体的・対話的に学習するよさを感じられやすい。(1年P7、P59～61)</p> <p>○1時間の内容が、ほぼ見開き2ページにまとめてあり、生徒にとって見やすい構成になっている。(1年P174、175)</p>
	○バーコードリーダーが載せてあり、簡単にネットにアクセスできる。					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
E	○計算演習の量は適切。 ○章末の問題は基本・応用・活用と分けて示してあり取り組みやすい。(1年P.61～P.63)	○章の振り返りのページがある。(1年 P64他) ○算数から数学へのページで小学校の内容との関連を意識付けできている。(1年P127)	○章の導入ではキャラクターの会話をヒントに課題の見方を示している。(P166～P167)	○サンドミュージアム(1年P194) ○小单元ごとに目標が示している。(1年P.196)	○章末の深めようのページを参考に自学を進めることができる。(2年P.39) ○「数学の力」のページでインタビュー記事を取り扱っている。(最初のページ)	○巻末にホワイトボードマーカーで書いたり、消したりできるページがある。
G	○小,中,高,大への連携の意識を随所に強く感じる。特に「学びのマップ」は、生徒が小学校でどこまで習ったかを教師が把握しやすい。 (1年P.266～P.274) (2年P.220～P.231) (3年P.240～P.251)	○各章の終末に、この章でどのようなことを学んだかをノートに書かせる例があり、言語活動に取り入れやすい。(1年P.66～P.67) ○数学の難問や最近の動向にもふれている。 (1年P.275) ○1年のはじめの章は「整数の性質」で小学校で習った整数の知識を活かせる形になっている。(1年 P.12～P.22)	○データ分析を生データをもとに、パソコンを使って処理させやすい多変量のデータが付属している。(1年P.258～P.259) ○算数と数学とのちがいや学年ごとに学ぶことがらが書かれてあり、見通しを持ちやすい内容とデザインになっている。(1年表表紙の裏)	○数学が社会に活かされている事例として、社会人の先輩からのことばや写真に説得力があり、生徒が興味を持ちやすいように工夫されている。 (1年P278～P281) ○安野光雅美術館や仁摩サンドミュージアムなど島根にゆかりのある写真が使われている。 (1年P.45 , P.265)	○巻末の補充問題は、章や節、授業の進度に応じて、教科書のどのページと対応しているかがわかりやすく、量も十分である。実力アップ問題もある。 (1年P.285～P.300) ○数学のレポートの書き方の例があり、夏休みの研究などにも使える(1年P.262～P263)	○ページの右側に脚注をつけ、数学的な考え方や補充問題の掲載ページなどを載せ、主体的な学びになるように配慮されている。(3年P.46)

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
L	<p>○現在学習しているところの体系的な数学的な見方や考え方をことばで補充する文章がともよい。 (1年P13下,P14下など)</p>	<p>○1年1章の導入が工夫されている。社会や理科の知識なども必要で、生徒が興味をもって取り組める内容。 (1年P10～P11)</p> <p>○いきなり仮平均という言葉を出さずに、生徒のことばから必然的に仮平均ということばが出るよう工夫されている。 (1年P49)</p>	<p>○「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」とで表紙の開き方がちがう。(表表紙と裏表紙)</p> <p>○QRコードが教科書の表紙のわかりやすい場所にあり、活用しやすい。個別学習に使える。 (表表紙)</p>	<p>○導入が丁寧で内容の工夫がみられる。紙パックのリサイクルや現実的な課題に設定されていて扱いやすくなっている。 (1年P137)</p> <p>○仁摩サンドミュージアムやサンライズ出雲など島根にゆかりのある写真が使われている。 (2年P.238) (3年P.258～P.259)</p>	<p>○巻末の「もっと練習しよう」の問題は、すぐに答えがついていて、さがしやすくなっている。(1年P.240～P254)</p> <p>○「自分から学ぼう編」は開くと、自主学習用の問題がすぐに出てくるので、生徒にとってさがしやすい構造になった。(裏表紙から)</p>	<p>○表表紙の「みんなで学ぼう編」から学習を進め、裏表紙の「自分から学ぼう編」で学びの記録を残したり、学んだことを深めたりすることができる構成になっている。</p> <p>○章末問題は見開き各2ページで基本問題と標準問題で構成されている。</p>
N	<p>○ノートの書き方の参考になるような解答例が示してある。(書体が手書きのようにしてある。1年P215)</p> <p>○章の前にふりかえりのページがあり、既習事項を確認してから学習を進める工夫がされている。 (1年P122)</p>	<p>○比例・反比例の利用では、ペットボトルキャップや電子レンジなど、生徒が身近に感じる問題が設定してある。(1年P148～151)</p> <p>○見開き2ページを使って、見やすくわかりやすい構成になっている。 (2年60～61、124～125)</p>	<p>○章の最初には、写真やイラスト、吹き出しを用いて、これから始まる学習への興味関心を高める工夫がされている。(3年P97、1年P157)</p> <p>○作図の場面では、ゲームの要素を取り入れ、楽しみながら学習できるよう工夫されている。(1年P168)</p>	<p>○いろいろな方法で解くことの良さを示している。(1年P55)</p> <p>○裏表紙にある学びの自己評価で、日々の学習で大事にしたいことを確認ができる。</p> <p>○学年のまとめでは、全学年で学習したこととのつながりを確認でき、まとめだけでなく、章の導入でも活用できる。(2年P228～235)</p>	<p>○学年末のまとめが、前年度の学習と合わせて載せてあるので、学び直しをするときに使いやすい。</p> <p>○バーコードリーダーを読み取ると、理解を深めるコンテンツが利用でき、家庭での学習にもいさせる。</p> <p>○文字の意味を、英単語とのつながりから理解させている。</p>	<p>○全学年に探求ノートがあり、本冊の内容を深める課題や、これまで学んだ内容を総合的に活用して解決する課題に取り組むことで、見方・考え方が伸ばせる工夫がされている。</p> <p>○確認問題、問題A、問題B、チャレンジ問題など、生徒の理解度にあわせた課題があり、個別対応がしやすい工夫がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 科No. 4

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
O	<p>○問いの横に解答付きのチャレンジがあり、時間を有効に使いながら練習ができる。(2年P.19、20)</p> <p>○□で抜いてある部分が多く、ポイントを絞って考えることができる。(2年P.123)</p>	<p>○見方、考え方の方法が示してあり、意識して学習を進めることができる。(2年P122)</p>	<p>○章のとびらの問題はキャラクターの会話をヒントに示してある。(2年P96,97)</p> <p>○巻末の対話シートを活用して、学びあいの場面を設定することができる。(2年P241～P248)</p> <p>○特に注意すべきポイントは太字。</p>	<p>○隠岐汽船（1年P122）</p> <p>○小单元ごとにめあてが示してある。</p> <p>○サンドミュージアム（1年P198）</p> <p>○関連付けてまとめる（1年P110）</p>	<p>○章末課題の最後は説明する課題を入れている。</p> <p>○巻末にプログラム(2年P204,205)</p> <p>○章末の探検ページで学習を発展させる課題が示してある。(2年P190)</p>	<p>○巻末の対話シートを活用して、学びあいの場面を設定することができる。(2年P241～P248)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理科 No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への工夫等	4.教科の特性、地域の実態等への適合	5.発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>・生徒がつまずきやすく定着度が低い内容には「例題」「練習」「確認」などを設け、反復練習させることができる。(1年P83)</p> <p>・主体的かつ対話的な学習が進められるようなワークシート(自分の考えを記入することができる)が盛り込まれている。(3年P19)</p> <p>・これまで説明が難しく分かりにくかった内容について、分かりやすい写真や図が使用されている。(3年P198)</p> <p>・実験の結果が次のページに示されているので探究心をもって取り組める。</p> <p>・実験や観察で利用する器具の基礎操作の説明ページが示されており、実験や観察を安全に正確に行うことができる。(1年P87)</p> <p>・レポートやグラフの書き方が丁寧に説明してある。(1年P127)</p>	<p>・各節の導入部の「レッツスタート!」で問題発見をし、実験や観察を経て振り返りの流れが構成されており、生徒の主体性を高め、見通しをもって学習に取り組むようになっている。</p> <p>・「Before&After」が各章の前後にあり、学習を振り返り、生徒が自分自身の成長を実感できる機会がある。</p> <p>・「これまでに学んだこと」でこれまでの学習との関連性を示すことで学習をスタートさせやすくなっている。(2年P14)</p> <p>・学習を進める上で大切な「分類」「観察」「議論」「発表」「考察」などのしかたについて取り上げられている。(1年P2～5)</p>	<p>・「この単元で学ぶこと」でこれから学習する内容に見通しがもて、学習意欲が高まる。(1年P12)</p> <p>・自分でまとめや確認がインターネットを活用した学習ができるところに「Dマーク」がついている。(1年P114)</p> <p>・多くの鮮明な写真を用いて観察しにくいものでも分かりやすくしている。(1年P33)</p> <p>・「つながる科学」で科学の歴史や世界につながる日本の技術などが紹介されており興味をひく。(3年P243)</p> <p>・写真の一部を隠し、想像したり考えたりする機会を与え、対話的な学びや深い学びを自然に実現できる。(1年P156)</p> <p>・キャラクターのヒントが思考を促してくれる。(2年P251)</p> <p>・ペーパークラフトを制作することで楽しく学ぶことができる。(巻末)</p>	<p>・島根県に関する「たたら製鉄」や「浜田市の露頭」の試料が掲載されている。(2年P61、1年P228)</p> <p>・授業での学習がどんな場面で活用されているかを「世界につながる科学」で紹介している。(1年P134～135)</p> <p>・ページ下部に示された活動枠やフローチャートにより、生徒が探究の流れや現在の活動の意味を把握しやすくなっている。</p> <p>・生徒がよくやりがちな誤りが絵で示してあり分かりやすい。(1年P9)</p> <p>・学校の周りや地域の観察や調査に取り組む学習が設けられている。(1年P196～197)</p> <p>・1年生の巻頭部分に「理科室の決まり」があり、中学校の理科への取組の最初のガイダンスで役立つ。(1年P8～9)</p> <p>・巻末資料に「実験器具一覧」や「科学であつかう量の測定と表し方」があり、科学の特性を生かした学習に取り組む際のサポートとなる。(1年P252～253)</p>	<p>・「つながる科学」では関連する知識や発展的な内容があり、興味をひく。(3年P179)</p> <p>・「学びをいかして考えよう」は学んだことが生活の中でどうなっているかを考えることができるため、自由研究のような発展的な学習に取り組む手立てになる。(1年P41)</p> <p>・「特設ページ」や「学びを広げよう 自由研究」は自由研究への取組につながっており、発展的な学習への取組の手助けとなる。(1年P62～63、P250～251)</p> <p>・各章末に「大切な用語」がその記載ページとともにまとめている、家庭での自主学習や復習に役立つ。(2年P82)</p> <p>・他教科との関連が示してあり、さらなる学習意欲につながる。(1年P28)</p>	<p>・随所に「つながる科学」が掲載されており、学習内容と日常生活とを関連づけられるため、学習意欲を高められるような工夫がされている。</p> <p>・写真や図が単に多いだけでなく、紙面の配色や大きさ、レイアウトが工夫されたユニバーサルデザインになっていて読みやすい。</p>
<p>・これまで実験や観察で利用していた教材がほぼ変更されていないため、新たに予算をたてて購入する必要がほとんどなく、経費的に助かる。</p>						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への工夫等	4.教科の特性、地域の実態等への適	5.発展的学習、家庭学習の工夫	
B	<p>・「理科の学習の進め方」が設けられ、見通しをもって科学的に探究できるようになっており、主体的・対話的で深い学びを実現しやすくなっている。(1年P4～5)</p> <p>・表、グラフ等に工夫が見られ、わかりやすい。(1年P113)</p>	<p>・各章の始めに「これまで学習したこと」「これから学習すること」があり、学習をスタートさせやすくなっている。(1年P10)</p> <p>・生命のつながりの単元に生物の種類の多様性と進化を加えていて、流れがよい。(3年P136)</p>	<p>・巻頭、単元や章の始めなどの見開きを使ってダイナミックな写真や図が掲載されており、理科への興味・関心を高められる。(2年P6)</p> <p>・「つながる」で他教科との関連を示し興味をもたせている。(1年P71)</p>	<p>・島根県出雲市の日御碕の例が掲載されている。(1年P215)</p> <p>・「くらしの中の理科」では、日常生活に科学がどのように活用されているかを紹介しており、科学を身近に感じられるような工夫がされている。(3年P46)</p>	<p>・単元の終わりに「まとめ」「単元末問題」「ノートやレポートの書き方」などが掲載され、学習した知識を確認したり、活用または成果を表現したりする手助けになっている。(1年P70)</p> <p>・どの学年にも「理科の学習と算数・数学」を設けられていて、単位の一覧や割合、計算の仕方などがまとめてある。(2年P308)</p> <p>・3年間の学習のまとめを示している。(3年P338～)</p>	<p>・観察・実験の目的を生徒に意識させながら、自分の考えを整理したり、表現したりする活動が取り入れられている。</p>
E	<p>・身近な化学変化「燃焼」からスタートしている。(2年P17～)</p> <p>・循環系を学習してから呼吸や消化を学ぶので、毛細血管等が扱いやすい。(2年P109)</p> <p>・動物、植物の生命維持のしくみをつなげて考えやすい。(2年P137～138)</p> <p>・生物同士のつながりの単元に生態系の学習を入れている。(3年P114～)</p>	<p>・実験や観察については、課題設定から実験、結果、考察といった過程がまとめて掲載されており、探究しやすくなっている。(1年P17～20)</p> <p>・各学年の巻頭部分で「理科のトリセツ」が記載され、なぜ理科を学ぶのか、どうやって学ぶのかについて様々な観点から説明しており、理科の学習の意義を感じることができる。(各巻頭)</p>	<p>・AB判の大きい紙面に写真や図をダイナミックにレイアウトされており、生徒の興味関心をひく。(3年P186～187)</p> <p>・「サイエンスカフェ」では科学に関連する話題を載せて、興味を持たせる内容になっている。(2年P69)</p> <p>・「やってみよう」では、生徒が取り組んでみたい活動を紹介している。(2年P135)</p>	<p>・「Can-Do-List」があり、「どのように学びに向かうか」「どのような知識や技能をみにつけるか」「理解していることをどのように使うのか」を確認してから学習に取り組める。(2年P16)</p> <p>・島根県出雲市の写真が採用されている。(1年P220)</p>	<p>・QRコードを介したデジタルコンテンツの活用ができるため、家庭学習の手助けとなる。</p> <p>・地域の博物館などの紹介が掲載されている。(3年P265)</p>	<p>・目標や見通しを明確に持って学習に取り組み、章末には何ができるようになったかを振り返り、生徒自身が成長を意識しながら学習を進められるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への工夫等	4.教科の特性、地域の実態等への適合	5.発展的学習、家庭学習の工夫	
G	<p>・掲載されているキャラクターの発言が、主体的・対話的な学習のモデルとなっている。(1年P20)</p> <p>・発達段階に応じてフロントサイズが変えてある。(1年)</p>	<p>・「学習前の私」と「学習後の私」により、学習の前後で同じ問いかけをすることで自身の成長のメタ認知を促している。(各章の始めと終わり)</p> <p>・巻末に生物カード、原子のモデルカード、星座早見シートがついており、生徒が学習するツールとして使用できる。(各学年巻末)</p>	<p>・AB 変形判を採用しているため、ダイナミックな資料写真が提示され、生徒の興味・関心をひく。(3年P122～123)</p> <p>・「ハローサイエンス」で科学の話題を紹介し、興味関心を持たせる工夫をしている。(2年P22)</p>	<p>・各学年の巻頭部分に「探究の進め方」があり、各ステップのもつ意味や留意点などを意識しながら理科の学習を進めることができる。(各学年巻頭)</p> <p>・教科書は「探究の進め方」にそって構成されており、対応する箇所に探究の各過程を示すマークが付いている。そのため、探究の進め方のどのステップを行っているかを確認することができる。</p>	<p>・「発展」や「まなびリンク」などにより、小・中・高との接続や他教科との連携を意識した構成があり、学習の深まりや広がりを促している。(3年P104～105)</p>	<p>・小学校や高等学校の学習内容を示し、円滑な接続を意識した構成になっており、学年に応じてステップアップできるような工夫が成されている。</p>
L	<p>・生徒が理解しにくい内容や誤解しやすい内容などに「例題」や「なるほど」が設けられており、基礎基本が身につけやすい。(2年P239)</p> <p>・どの学年も「生命」→「物質」→「地球」→「エネルギー」の順に単元を構成している。</p> <p>・サイエンス資料で、実験器具の使い方や注意事項などをわかりやすくまとめている。(1年P130～137)</p>	<p>・仮説や計画などを生徒自身が考えて取り組める「探Q実験」があり、主体的・対話的な学習に取り組める。(1年P91～93)</p> <p>・化学分野の導入部分で「サイエンス資料」として一括して基礎内容を示している。QRコード先に動画で説明をつけている。(2年P138～139)</p>	<p>・単元の導入ページでは、「学ぶ前にトライ」が設けてあり、学習に関連した身のまわりの疑問について考えることからはじめられており、興味をもって学習に入ることができる。(3年P47)</p> <p>・AB判の大きい紙面に写真や図をダイナミックにレイアウトされており、生徒の興味関心をひく。(1年P204～205)</p> <p>・QRコードを提示し、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができ、生徒の興味関心を引くことができる。(1年巻頭)</p>	<p>・各学年の巻頭部分に理科の学習を進める「探究の過程」が説明してあり、学習を進めやすくなっている。</p> <p>・島根県日御碕の流紋岩が写真で取り上げてある。(1年P96)</p> <p>・島根県浜田市のれき岩が写真で取り上げてある。(1年P104)</p> <p>・大山隠岐国立公園を紹介している。(1年P115)</p> <p>・巻末の「サイエンス資料」で龍源寺間歩を紹介。(1年P275)</p> <p>・海辺の風力発電で島根県江津市を紹介している。(2年P95)</p>	<p>・コラムや終章「ひろがる世界」では日常生活や社会に関連した内容が掲載されているため、理科の有用性を感じることができ、さらなる発展的な学びにつながる。(3年P100)</p> <p>・QRコードを介したデジタルコンテンツの活用ができるため、家庭学習の手助けとなる。(各単元末)</p> <p>・算数・数学、社会科、国語、家庭科などの他教科との関連を示し、横断的に学習できるようになっている。(2年P245)</p>	<p>・QRコードが多く利用されており、様々な動画や問題を活用することができ、自主学習ができるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（一般） No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	<p>○鑑賞教材について、楽譜資料が充実している。</p> <p>○「学びのユニット」では、[共通事項]を手がかりとして学びを深めていけるよう、円でもわかりやすく記されている。また、主要教材と一緒に比較教材がある。(1年 p.4, 5)</p> <p>○歌唱・創作・鑑賞の「ACTIVE」で話し合う活動が主体的にできるよう工夫してある。</p>	<p>○楽譜からわかることを直接教科書上でまとめることができるような工夫がなされている。</p> <p>○主要教材に応じた比較教材がある。(1年 p 48, 53, 63など)</p> <p>○楽典資料、鑑賞資料を見開き3ページにわたって掲載しており、わかりやすい。(口絵3, 4)</p> <p>○表現と鑑賞の学習のバランスに配慮されている。</p>	<p>○鑑賞教材において、楽譜のすぐ下に各フレーズを演奏する楽器の写真を組み合わせて掲載することで、よりその楽器の音色に集中しやすい工夫がなされている。(2・3年上 p 30)</p> <p>○歌詞に出てくるキーワードに関連した写真やイラストが掲載されており、イメージがわかりやすい。(2・3年下口絵①②)</p>	<p>○アウトリーチ・教育活動・音楽療法についてわかりやすくまとめている。(2・3年下p66)</p> <p>○コンピュータと音楽について、著作権のことも触れながらわかりやすく説明されている(2・3年p64)</p> <p>○「CMソングをつくらう」では、地域の名物や名所を創作活動で紹介できるよう工夫されている。(2・3年下 p 24, 25)</p> <p>○「歌のアルバム」に学年に応じた音域の合唱曲が掲載されている。</p>	<p>○歌唱・創作・鑑賞領域それぞれの領域の比較(共通性と固有性)について、発展的な学習していくことができる。</p> <p>○学びリンク(見る・聴く・記録する)は発展的学習や家庭学習ができる。(目次右下)</p> <p>○「深めてみよう」などの発展的学習によって、より深い内容を学習できる。</p>	<p>○様々な時代・諸外国の楽曲から教材が選択されており、生徒が楽しんで学習に取り組むことができるように工夫されている。(2・3年上 p 74～81)</p> <p>○「言葉の発音について」「鼻濁音」や「子音」等について説明がしてある。(1年 p 19)</p>
H	<p>○音楽と社会や世界との関わりやリンクが見えやすく示されている。</p> <p>○音や音楽が身の周りの生活や社会の中で、どのような関わりや役割を果たしているか、身の周り ➡ 社会 ➡ 世界と視点を広げられる内容になっている。</p> <p>○表紙裏に「教科書に込めた願い」が書いてあり、生徒が手にとって眺めたい、という思いと、音楽の授業に向かう上での意欲を喚起させる。</p>	<p>○歌唱、創作、鑑賞に分けられていることで、より題材の構成がわかりやすくなっている。</p> <p>○見開きページで学習目標、活動手順の吹き出し、また、何を学んだことの書き込みができる構成である。</p> <p>○音楽を形づくっている要素が左側に見出しで表記され、生徒が流れや内容をつかみやすいようになっている。(1年 p 10～64)</p>	<p>○その曲の風景や情景を連想させる写真が適切に配置されている。また、教材のねらいに即してレイアウトがなされている。(写真と楽譜、地図と楽器などの順番をねらいに即して変化させている)</p> <p>○色(寒色背景に白色の文字)写真(囲みで認識しやすい)・文字(UDフォント)において、細部にわたりユニバーサルデザイン化が図られている。</p>	<p>○地域の郷土芸能について取り上げられていることにより、地域に根ざした伝統音楽を理解する手助けになる(2・3年上で石見神楽、2・3年下裏表紙で出雲神楽)</p> <p>○ステップが「深めよう！音楽」に順序立てて示されている。(1年 p 30, 31等)</p> <p>また、様々な見方ができるよう演奏者のアドバイスや指揮の体験など、やってみながら生徒が主体的に何を話し合ったらよいか、学習の流れが理解しやすいものになっている。(2・3年下66, 67)</p> <p>○「生活や社会の中での音楽」で音楽の役割や仕事などの取り組みが紹介されている。(2・3年下 p 68, 69)</p>	<p>○QRコードを用いることで、関連した教材や事柄について知ることができ、家庭・学校を問わず、より深い学びへと結び付けていくことができる。</p> <p>○表現領域と鑑賞領域を結びつけた教材が多く用いられていることで、より発展的な学習につながっていく。(2・3年上、歌舞伎・文楽)</p> <p>○生涯にわたって様々な音楽に出会えるよう多彩なジャンルの音楽の紹介がされている。(2・3年下 p 60～63)</p>	<p>○全体として、曲の中身を連想させる色の工夫がしてある。レイアウトがスムーズであり、支援の必要な生徒に対しても、音楽に苦手意識を持った生徒にも、読みたくなるような工夫が随所にされている。</p> <p>○新学習指導要領に示された3つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材が系統立てて記されていて、教師が1年の学習計画を立て、評価基準を考えやすい(1年、2・3上下 p 8, 9)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（器楽） No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	<p>○演奏する曲のすぐ横に、リコーダーの運指が載せてあり、取り組みやすいように工夫されている。学習する運指がスモールステップで示してある。（p6～15）</p> <p>○タンギングの仕方について、さまざまな発音で記され、そこにはルビもふってあるため、生徒が演奏する際に理解しやすく、取り組みやすい。</p>	<p>○基本的な奏法のページ(左側)と、発展のページ(右側)が分けて書いてあることで、基礎から発展への流れが分かりやすくなっている。</p> <p>○器楽と鑑賞領域を横断して学習できるように「何が同じで、何が違う？」のコーナーが示されている。（p26, 52）</p>	<p>○教科書の冒頭に、さまざまな楽器編成の演奏写真を掲載することで、幅広い楽器の演奏に対する興味関心につながっている。</p> <p>○楽器の演奏写真のすぐ横に、関連ページが記されていることで、学習に取り組みやすい工夫がなされている。（口絵①）</p>	<p>○リコーダーの楽譜にコードが記されているため、ピアノやギターを加えてアンサンブルができるようになっている。（p6～16）</p> <p>○楽器（吹く楽器、弾く楽器）の共通性や違いを『まなびリンク』で調べ、自分の考えを直接書き込みができる。また、発展で世界の民族楽器も資料として載っている。（p26, 27, 52, 53）</p>	<p>○生徒の興味関心に幅広く対応できるように、曲が豊富に掲載されている。</p> <p>○ウェブサイトの『まなびリンク』を活用することで、主体的・発展的な学習や家庭での学習につなげることができる。（p27, 53）</p>	<p>○基礎的・基本的な技能の習得の手助けになるように楽譜や教材が配置されている。</p> <p>○さまざまな楽器や演奏形態が写真で紹介してあり、生活や社会の中にあるさまざまな音楽が掲載されている。（p73, 74, 84, 88）</p>
H	<p>○和楽器奏法の説明（和太鼓のばちの持ち方）を具体的に示すなど、初めてその楽器に取り組む生徒により分かりやすく説明が添えてある。（p58）</p> <p>○打楽器が3つ増え、さまざまな奏法についても記載されている。（カホン、ジェンベ、ドラムセット）（p74）</p> <p>○リコーダーでは、1ページにアルト・ソプラノの両方で演奏できる内容になっている。</p>	<p>○歌唱や鑑賞で取り上げられている楽曲をリコーダーや和楽器で演奏したり、口唱歌したり、多様な表現力を培う手助けとなっている。（エーデルワイス、歌舞伎、六段の調など）</p> <p>○アンサンブルセミナーでは、左ページで学習目標、音楽を形づくる要素、記号や用語など、右ページに活動手順の吹き出しが構成されていて、深く考えられるようになっている。</p>	<p>○教科書の冒頭に、一流アーティストへのインタビューや演奏写真を掲載することで、楽器を演奏する意欲づけにつながっている。（p2～5）</p> <p>○教科書の最後に、資料としてさまざまな楽器を紹介する「楽器の図鑑」が示されていることで、一般教科書との併用や、鑑賞に取り組む際の手助けとなっている。（p104,105）</p>	<p>○篠笛や太鼓に「太鼓を使った各地に伝わる郷土の祭りや芸能」について写真で示すことで、一般教科書との内容の関連をはかることができる（p56, 62）</p> <p>○箏や三味線では、さまざまな演奏形態が写真で紹介されていて、一般教科書との内容の関連を図ることができる。（p40, 50）</p>	<p>○考えるポイントについて、図や写真で分かりやすく説明してあり（良い例だけではなく悪い例も掲載されており）個人でも取り組みやすいものになっている。</p> <p>○演奏者についてのQRコードが右下にあり、自分で調べることができる。（p41, 51, 57, 63）</p> <p>○太鼓の楽譜は、打楽器や膝打ち、唱歌でもできるようになっている。（p94, 95）</p>	<p>○中学生の器楽の学習内容がまとめられ、音楽科で身につける資質・能力と、その学習の支えとなる音楽を形づくっている要素との関連が示されている。（p8, 9）</p> <p>○生活や社会の中の音や音楽について触れられるよう、幅広いジャンルの楽曲が掲載されている。また、実態に応じて、楽器だけでなく唱歌でも演奏ができるように配慮がなされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

美術 No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への工夫等	4.教科の特性、地域の実態等への適合	5.発展的学習、家庭学習の工夫	
D	<p>○1年は67ページ、2・3年は123ページで構成。2・3年で独立した鑑賞の題材を多数掲載している。</p> <p>○「学習の目標」が育成を目指す3つの資質・能力で整理されているとともに、「学習のポイント」によって学びを深めるポイントを生徒が意識できるよう工夫されている。(1年P.10)</p>	<p>○1年、2・3年のどちらも、見開きページが複数あり作品を関連させたり、作品の細部に目を向けたりしながら鑑賞できるように工夫されている。(1年P.25-28、2・3年P.38-40、41-44、96-101)</p> <p>○2・3年の「鑑賞」では「日本らしさ①～⑤」として日本独自の美術文化について取り上げるとともに、西洋美術文化についてもまとめられており、世界と日本の美術文化について幅広く学ぶことができるように工夫されている。(2・3年P.38-61)</p>	<p>○1年「発見と創造」、2・3年「探求と継承」のどちらも表紙と次頁が関連付けられるとともに、各学年への美術での学びを意識することができるよう工夫されている。(1年P.2-3、2・3年P.2-4)</p> <p>○1年生の最初に「学びの地図」として、学習指導要領の「内容」に基づいて美術の学習が整理されており、生徒が期待と見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。(1年P.5-7)</p> <p>○原寸大の図版が複数掲載されており、作者の意図などを意識しながら鑑賞することができるように工夫されている。(2・3年P.19)</p>	<p>○巻末に「学びの資料」として技術面(技能)に関わる資料がまとめてあり、表現の幅を広げる工夫がなされている。(1年P.52-67、2・3年P.106-122)</p> <p>○「美術の用語」として、美術の専門用語の解説がなされ、学習活動の中で生きて働く知識となるよう工夫されている。(1年P.18)</p> <p>○地域の伝統文化に関する工芸品などが、幅広く取り上げられており、地域の美術文化に対する見方や感じ方を深める工夫がされている。(1年P.50-51、2・3年P.82-89)</p>	<p>○各題材のページ左下に関連のある他教科の単元名を示し、教科等横断の参考となるように工夫されている。(1年P.22)</p> <p>○各題材や「学びの資料」にQRコードが掲載され、関連する動画等を見ることができ、多様な学び方が保証されている。(1年P.52)</p> <p>○2・3年に「まとめ」の項として「美術の力を生かして社会とかかわる」があり、社会の中での美術や美術文化とかかわりに関する内容が整理されている。(2・3年P.92-105)</p>	<p>○作家やデザイナーの制作過程や思いが複数掲載されており、専門家のものの見方や考え方から制作についての思いを知ることができるよう工夫されている。(1年P.30-31、34-35、2・3年P.96-101)</p> <p>○1年では高村光太郎や、伊藤若冲、2・3年ではゴッホや琳派など、一人の作家(グループ)に焦点を当てて複数の作品を鑑賞しながら、学びを深めることができるように工夫されている。(1年P.24-29、2・3年P.18-19)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
I	<p>○QRコードが随所にあ り、動画を見て制作の手 順を理解したり、鑑賞作 品を解説付きで見たり することができる。モデ ンテクニックの紹介で は、一つ一つの技法に対 して1つずつの動画に 区切って提示してあり、 生徒にポイントを絞っ て提示することができる。 (1年P.62)</p> <p>立体作品の鑑賞でもQR コードがあり、回転して みるができるよう な工夫がされている。 ○学習指導要領に沿っ て、主体的・対話的で深 い学びが実践できるよ うにグループ活動での 意見交換の様子を紹介 するなどして具体的な 指導の手がかりを提示 してある。(2・3年P. 8)</p>	<p>○オリエンテーションで図 画工作とのつながりや鑑賞 の仕方、3年間を見通した 学習内容、教科書やスケッ チブックの活用の仕方が丁 寧に解説してある。(1年P. 6～9)</p> <p>○目標を焦点化して示し、 見通しをもって学習に取り 組めるように工夫してあ る。(各題材の導入)</p> <p>○題材の基本的な学習の流 れの構成を統一している。</p> <p>①「鑑賞」対話的に鑑賞で きるようにし、その題材の 導入時に興味を引くように 工夫している。</p> <p>②「表現」(発想・構想) 構想を広げるための手だて が示してある。</p> <p>③「表現」(みんなの工夫) 制作手順を段階的に図説す るとともに、どんな思いで 制作したかが詳しく説明し てある。</p> <p>④「鑑賞」作者の言葉を重 要視し、鑑賞の一助として いる。</p>	<p>○1年が洋画、2・3年が 水墨画で生徒の興味を引 くバランスが取れてい る。(表紙)</p> <p>○手触りもよく、注目さ せたい作品のカラー印刷 やバーコードにも工夫が なされている。(裏表紙)</p> <p>○「レオナルドとその時 代」にあるように、作業や 書き込みができる工夫が なされており、体験的に 美術作品を鑑賞できる。 (2・3年P.10～13)</p> <p>○見開きを活用すること で、原寸大で鑑賞するこ とができたり、比較して 思考しやすくしている。 (1年P.30～37, 2・3年 P.25～29)</p> <p>○「絵巻物と漫画の表現」 では、紙質を和紙に近づ けることで触感に訴えか け作品への興味を引いて いる。(2・3年P.37, 3 8)</p>	<p>○「学習を支える資料」では、 表現方法を比較して提示し、 生徒が施行しやすいようにレ イアウトを工夫してある。(1 年P.58, 59)</p> <p>○「美術鑑賞を楽しむ手がか り」では、美術作品をどのよう に見るとよいか学習の流れを 分かりやすく示すとともに、 美術的な言葉や印象を表す言 葉等を例示し、その言葉を使 って鑑賞できるように配慮さ れている。(1年P.80)</p> <p>○「今の自分、これからの自 分」などに見られるように、作 者の表したいことや思いがど の作品にも「作者の言葉」で紹 介してあり、気持ちを大切に 扱っている。(2・3年P.44～ 47)</p> <p>○「発想を広げる」では、作品 を作ったり鑑賞したりする際 に、グループで話し合いをす る手立てとしてマッピングや 9マス法、ベン図などを紹介 したり、話し合いの形態や方 法を示したりしている。(2・ 3年P.76, 77)</p>	<p>○教科横断的な学習の 観点から、他教科とのつ ながりや実生活への発 展が随所に紹介してあ る。道徳科(1年P.37等) 国語科(1年P.37, 45, 80, 2・3年P.59) 数学 科(1年P.43) 社会科(1 年P.53) 理科(1年P.7 4) 家庭科(1年P.55) 生活への発展(1年P.47, 49, 67, 2・3年P.61, 63, 67, 69, 101)</p> <p>○谷川俊太郎の詩「うつ くしい！」が1年から3年 までの教科書の裏表紙 で紹介されていて、美術 科ならではの感性を訴 えかけている。(1年P.2, 2・3年P.2, 105)</p>	<p>○基本的な構成を「鑑賞」 「表現」(発想・構想)「表 現」(みんなの工夫)「鑑 賞」とし、授業の流れに見 通しが持てるように工夫 されている。また、作品に 対する作者の思いや願い が「作者の言葉」に紹介さ れていて、作者の思いを 大切にしている点がとて も良い。</p> <p>○学習指導要領の内容を 意識して、主体的・対話的 で深い学びを通して美術 科の資質能力を育むこと ができるように、発問や 思考ツールなどの提示が とても丁寧である。</p> <p>○教科横断的な学びが各 教科で発展的に展開され るような提示が多くある ところが特徴的である。</p> <p>○見開きの使い方や、書 き込みができるページの 工夫など生徒の興味を引 く仕掛けがたくさんあ る。</p>
	<p>○キャラクターが発言する内容が、ねらいに迫る意図的な言葉になっているし、生徒目線の言葉にしてあるので親しみをもって 思考できるよう工夫してある。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
○	<p>○3年間の学びを、「いろいろな私に出会う、3年間の成長地図」という形で題材ごとに生徒作品を掲載し、どのような作品を制作するのか具体的に示してあり、見通しをもって学習できるように工夫されている。(1年 p. 6, 7)</p> <p>○各題材で「学びの目標」が3つの視点に絞って書かれていたり、「造形的な視点」が示されていたりすることで、目的やポイントが明確にして学習することができるようになっている。(1年 p. 12)</p>	<p>○日本の絵画や屏風、西洋画、現代アートなど様々なジャンルの鑑賞題材が掲載されており、生徒の美術的な視点を広げることができるような工夫がされている。(1年 p. 32, 33, 2・3年上 p. 22, 23, 2・3年下 p. 22, 23)</p> <p>○表現の題材の後に鑑賞の題材を掲載したり、2・3年上の「デザインや工芸など」では最初に鑑賞の題材を掲載しその後表現の題材を掲載したりするなど、表現と鑑賞の題材をバランスよく取り入れている。</p> <p>○屏風の鑑賞が掲載しているページでは、紙質が少し厚くなっていて、実際に折ると屏風と同じような形で立体的にして鑑賞できるようになっており、表裏で2作品がみられる構成となっている。(1年 p. 32~37)</p>	<p>○各題材で生徒作品が大きく、そして多数掲載されており、生徒の興味・関心を引き寄せたり、発想・構想をする段階での手助けとなったりと工夫されている。</p> <p>○立体作品の生徒作品はQRコードを読み取ると60°で鑑賞できるようになっており、多数の視点からみることでイメージが広がったり、自身の制作の参考となったりと工夫されている。</p> <p>○原寸大で掲載してある作品が多く、作品の細部までみることができるため、表現の工夫や作者の意図などを想像しやすくなるよう工夫されている。(1年表紙、p. 29, 2・3上 p. 3, 2・3下 p. 24, p. 48)</p>	<p>○「暮らしに息づく土の造形」では、河井寛次郎の作品を取り上げるなど、島根県にゆかりのある作家や地域の伝統文化を身近に感じられるようになっている。(1年 p. 52, 53)</p> <p>○「学びを支える資料」の中にマッピングやアイデアスケッチの手法、アーティスト鈴木康広のノート活用術などが掲載されており、発想・構想の手立てとなるよう工夫されている。(1年 p. 58, 59)</p> <p>○「学びを支える資料」の中に「自然界や身の回りにある形や色彩」を掲載しているページがあり、モチーフの参考にしたたりと、表現活動をする時に効果的に活用できるようになっている。(1年 p. 68, 69)</p>	<p>○風景画の題材が、1年では「あなたなりの視点で描く」2・3上では「新鮮な見方で風景画を描く」、2・3下では「光に気持ちを重ねて描く」という異なる視点で示されており、発達段階を考慮し、より発展的な学習につながるよう工夫されている。(1年 p. 16, 17, 2・3年上 p. 12, 13, 2・3年下 p. 20, 21)</p> <p>○多くの題材で、「参照」という形で、「学びを支える資料」のページや他の題材のページが示されており、発想・構想をする時の参考としたり、他の題材とつながりをもって学習したりするなど工夫されている。(1年 p. 40, 2・3上 p. 32, 2・3下 p. 22)</p>	<p>○「絵や彫刻との出会い」「鑑賞との出会い」「デザインや工芸との出会い」という形でそれぞれの題材での3年間の学びが示されており、各分野での導入で活用することで、見通しをもって学習できるよう工夫されている。(1年 p. 10, 11, p. 26, 27, p. 38, 39)</p> <p>○「学びの目標」と「造形的な視点」が示されていることで、目的やポイントを絞って学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○生徒作品が多く掲載されていたり、「生徒の言葉」から作品に込めた思いなど書かれていたりすることから、技術面だけでなく、思いを込めて表現することの大切さが伝わるように工夫されている。</p>
なし						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>・学習のはじめに、学習課題が明確に記述されており、見通しや課題を持って取り組める。</p> <p>・思考・判断・表現に関する発問が多くあり、考えを深める工夫がされている。</p>	<p>・第3学年の保健編の単元配列が、時期に応じた配列になっており、生活実態に即した構成になっている。</p> <p>・1時間の授業の流れが分かりやすく記述されている。</p>	<p>・自己を振り返ることができるチェックシートが多く掲載されている。</p> <p>・Dマークコンテンツ(インターネット教材)の内容一覧があり、授業に活用しやすくなっている。</p>	<p>・新型の感染症が世界的に拡大する中、感染症の予防について、手洗いの方法を写真等で掲載されている。</p> <p>・文化としてのスポーツの意義では、人権に関わる記載があり、スポーツの教育的な意義と倫理的価値について取り上げている。</p>	<p>・終末に「出典一覧」が掲載されており、どのような資料に基づいたものかが明確になっている。</p> <p>・学習の終わりの「広げる」の項目では、学習したことを基に、自分の生活に当てはめ、更に調べるなど発展的な内容となっている。</p>	<p>・各学年の実態に応じた単元配列となっており、学習を効果的に進めることができる。</p> <p>・各章の終末に、学習のまとめ問題が掲載されており、内容を振り返ることができる。</p>
B	<p>・「学習のねらい」がはじめに書かれており、見通しや課題を持って、学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>・キーワードがページの最後に書いてあり、知識が身につけているか確認できる。</p>	<p>・章末に「学習のまとめ」があり、重要な言葉を示し、理解を深める工夫がされている。</p> <p>・「話あってみよう」という項目があり、話し合い活動の充実を図ることができる。</p>	<p>・資料や写真が、右側1ページにまとめてあり、見やすい。</p> <p>・トピックスが充実しており、興味関心が高まる工夫がしてある。</p>	<p>・生徒が身近なこととしてとらえることができるような導入が考えられている。</p> <p>・「活用して深めよう」を考えながら、自らの生活を振り返ることができる。</p> <p>・熱中症の応急手当について詳しく図解してあり、わかりやすい。</p>	<p>・「調べる」ページがあり、各自で興味をもったことなど選択して学習することができる。</p> <p>・「学びを活かそう」を活用して、知識の定着を知ることができる。</p>	<p>・各章のはじめに、学習内容がまとめられており、生徒が見通しをもって学習が進められるように工夫されている。</p> <p>・章の最後に「学びを活かそう」があり、身につけた知識を活用し、知識の定着を見ることができる。</p>
	<p>・QRコードを読み取り、資料や動画、まとめの問題などを活用することができる。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
K	<ul style="list-style-type: none"> 各観点別に「章のまとめ」の問題が分類されており、課題を持って取り組むことができる。 写真資料やイラストが豊富にあり、分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいとまとめが明確になっており、学びを深める構成となっている。 本文とイラストや図がバランスよく配置されており、見やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章で学習する内容が、一番はじめてのページに見開きで書かれており、一目で内容がわかる工夫がしてある。 「課題をつかむ」が生徒にわかりやすく、興味や関心をひくように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「クローズアップ」で2020東京オリンピックのことも触れられており、身近に感じることができる工夫がある。 1年生最初の保健分野である「健康の成り立ち」では、捉えづらい健康というものを資料で分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> コラムや事例など、本文に関連した読みもの資料が充実しており、知識を広げる工夫がされている。 「特集資料」がついており、より詳しく学習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の幅を広げていけるような資料や写真が掲載されているので、発展的学習につなげやすい。 「学習のまとめ」が毎時間設定されており、振り返りがしやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭にQRコードが付いており、ウェブサイトから調べ学習ができるように工夫されている。 					
P	<ul style="list-style-type: none"> 各章の始めに、学習内容がキーワードや写真で分かりやすく示され、見通しが持ちやすい。 章末の「章のまとめ」の問題が豊富で学習の定着が図れるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考える・調べる」では実生活と照らし合わせながら考えたり、意見を出し合ったりする学習が促され、多様な学習形態に発展できる。 文字と図やイラストとのバランスがよく、見やすく構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各時間の最初の「課題をつかむ」が考えやすい内容で導入として適している。 「情報サプリ」としてミニ知識が豊富に掲載されており、興味関心を引く工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「実習」として示されている内容では、イラストが効果的に示されていて、手順が大変分かりやすい。 写真が豊富に掲載されており、大変分かりやすく内容の理解に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 章末の「探求しようよ」では学習内容をより発展させたり、他教科と関連づけたりする上で有効な資料が豊富に掲載されている。 各学年の終わりに、1年間を振り返ることができ、自分の生活作りに生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題をつかむ」→「考える・調べる」→「まとめる・深める」の流れが各学習内容ごとに示され、授業の流れもスムーズで、生徒の理解にとっても有効である。 図やイラストが大きく、また写真が効果的に掲載されているため、興味関心を引く要素と理解を進める要素とが両立できている。
	<ul style="list-style-type: none"> 章末に「探求しようよ」として、各種のチェックシートが掲載されており、自己の生活を振り返ることができるように工夫されている。 巻頭にQRコードが付いており、インターネットやデジタル教材で、学習を広げたり深めたりすることができる。 					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○ガイドランスではAからDまでの内容が技術の見方・考え方を中心にとらえることができる。また、3年間の学習の見通しをもつことができる。</p> <p>○AからDの内容すべてに問題解決のプロセスが示されており、どの段階を学習しているのかわかりやすい。</p>	<p>○単一の素材を用いた題材例だけでなく、複数の素材を用いた題材例が示されているので、解決すべき問題に応じて題材が選びやすくなっている。また、「私の工夫」として発展例が多数示されている。</p> <p>○各内容の終末に「学習のまとめ」が設けられ、大切な用語が示されている。</p>	<p>○材料の素材や、種類だけでなく、具体的な製品も例示してあり関心をもちやすい。また、各内容の冒頭に技術を評価する4観点が示されている。</p> <p>○実験的な学習を補助するための「Dマーク」はデジタルコンテンツがホームページ上で無料利用できることを表しており、ICTが活用しやすい。</p>	<p>○「技術の天びん」が設定されていることで、トレードオフの観点からの「技術の最適化」について考えやすい。</p> <p>○生活場面のイラストから日常生活を想起させ、目的に応じた活用方法を考えることで生活の問題を発見し課題を設定できるよう工夫されている。また、実習を伴うページには「安全」についての写真やイラストが示されている。</p>	<p>○「他教科」「小学校」などのマークを用いて、他教科との関連、履修学年がわかるようになっている。</p> <p>○巻末資料に「コンピュータの基本操作」、「プログラミング手帳」が掲載されており、発展的な学習に関心をもちやすい。</p>	<p>○各内容の最後の「学習のまとめ」により学習全体の振り返りをし、復習と定着が図られるよう工夫されている。</p> <p>○各内容において問題解決の流れが具体例を示しながらわかりやすく表記されており、問題解決学習と製作・実習等が一体化させやすい。</p> <p>○見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインが採用されており、全体的に淡いカラーが用いられている。</p>
C	<p>○学習指導要領に示された三つの要素に分けて目次に示されていることにより、生徒も指導者も分野全体を概観しやすい。</p> <p>○本文と関連する資料番号に着色がしてあり、資料を探しやすい。</p>	<p>○問題解決をさせる際、大まかな設計の流れをまず示し、その後、流れに沿って詳しい記述がしてあることで生徒が系統的に学ぶことができる。</p> <p>○生徒が多角的に製作に取り組めるよう、題材の例示が多く多岐にわたっている。</p>	<p>○巻末に内容ごとの工夫された設計計画表が準備されており、生徒が主体的に学習することができるよう工夫されている。</p> <p>○実際には生徒が体験することができない伝統的な技術についてたくさんの記述がある。</p>	<p>○共生や防災、知的財産といった今日的な課題に関わる記述にはマークがつけてあり、課題を意識することができるようになっている。</p> <p>○「やってみよう」「振り返り」がスモールステップで設けてあり、着実に身に付けさせたい力がつくよう工夫してある。</p>	<p>○すべての学習活動が4ステップで示してあり、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる工夫がしてある。</p> <p>○各章の始めに小学校や中学校、他教科との関連が明記されている。</p>	<p>○どのページも文字が大きく、見やすい。</p> <p>○別冊のハンドブックがあり、製作の基本事項や発展的な内容を見つけやすい。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
D	<p>○ガイダンスでは学習内容や留意点が系統的に示されており、わかりやすい。</p> <p>○様々なプログラムの例が、実際の動きとフローチャート・画面上のプログラムの3部構成で示されており、理解しやすい。</p>	<p>○内容A～Dのすべての学習において「問題解決」の場面があり、学習意欲の向上が期待できる。</p> <p>○「調べてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」と、多様な学習形態を促す表示があり、言語活動の充実が期待できる。</p>	<p>○動画閲覧が可能なページにはQRコードがあるため、素早くサイトに接続して視聴ができる。</p> <p>○実物の写真資料を使うことで、学習をより身近に感じることができる。</p>	<p>○内容A～Dのすべてにおいて、「これからの技術」に関する記載があり、今後技術はどうあるべきなのかについて考えることができる。</p> <p>○内容A～Dのすべてにおいて、最後に「学習のまとめ」があり、学習してきた内容がどのページにあるかが一目で確認できる。また自己評価があるため学習の振り返りもできる。</p>	<p>○発展的な内容については「参考」や「課題」という表記で示されており、より実生活に結び付いた学習に発展させやすくなっている。</p> <p>○他教科や小学校での学習内容とのかかわりが記号でしめされており、関連性が一目でわかる。</p>	<p>○今回の教科書からAB版になったため、図表や写真が大きく見やすくなった。</p> <p>○「これからの技術」ではトレードオフの視点を大切にして最適解を導き出すことが強調されており、技術の味方・考え方を適切に生かした技術の評価を支えている。</p> <p>○「リンク」により他の内容との関連性がすぐに確認できるため、4つの内容の相互関係に気づきやすい。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○ルビが振ってある文字が多い。</p> <p>○单元ごとに「まとめ」があり、用語が整理されているので、確認しやすい。</p>	<p>○問題解決的な学習の方法、手順（プロセス）がチャート化されているのでイメージしやすい。</p> <p>○導入から基本の学習そしてまとめまで、見通しが持ちやすい。</p> <p>○食品衛生に関して、わかりやすい図で詳しく説明がされていて理解しやすい。</p> <p>○高齢者との関わり方は介助例が具体的である。</p>	<p>○キーワードが整理されている。</p> <p>○随所に写真が資料として活用されている。</p>	<p>○特に島根県というわけではないが、日本各地の食文化にふれていたり、地域の気候を意識した住居写真などが示されていたりしている。</p>	<p>○「いつも確かめよう」という生徒が失敗しやすい点などは詳細に図解してある。</p>	<p>○ルビが多く振ってあるため、多様な生徒へ配慮があり読みやすい。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインの配色を取り入れてあり、視覚的に見やすい。</p>
	<p>○実習の手順がわかりやすく明示されている。</p>					
C	<p>○新学習指導要領に提示された項目ごとに内容が配列されている。</p>	<p>○重要な語句の説明が丁寧にされている。</p> <p>○衣生活の教材にマスクが取り上げられていて、時代のニーズに合っている。</p> <p>○蒸し料理が掲載されている。</p> <p>○高齢者との関わりでは身体的な変化が具体的に掲載されている。</p>	<p>○QRコードがページに掲載されているので、動画を見て理解を深めることができる。</p> <p>○実物大の写真が資料として扱われている。</p> <p>○家族・家庭との関わりでは、アニメなどを取り入れて、生徒が興味を持ちやすい導入としている。</p>	<p>○特に島根県というわけではないが、日本各地の食文化にふれていたり、「せんばいに聞こう」といったコーナーが示されていたりする。住まいに関しては、出雲地方の住まいが写真資料として載っている。</p>	<p>○「やってみよう」「調べてみよう」では地域の素材について調べることを提示していて、既存の学習内容をさらに発展させて学習する内容になっている。</p> <p>○QRコードが掲載されているため自学自習に取り組みやすい。</p>	<p>○家族関係について様々なコミュニケーションツールを掲載している。また家族の関係図を掲載するなど、家族・家庭生活に力を入れた内容になっている。</p>
	<p>○中学生の視点に立った課題の提示方法が工夫されている。</p>					

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
D	<p>○新学習指導要領に提示された項目ごとに内容が配列されている。</p> <p>○「先輩からのエール」といったコーナーに、将来に向けての助になるようなコメントが載せてある。多様な意見の習得に繋がっている。</p>	<p>○日常生活にありがちな場面設定が「生活に生かそう」のコーナーにまとめられている。</p> <p>○新学習指導要領に新しく入った蒸し調理がわかりやすく明示している。</p> <p>○高齢者との関わりでは認知症などについても触れている。</p>	<p>○QRコードがページに掲載されているので、幅広く活用できる。</p> <p>○随所に写真が実物大の大きさで載っているため、イメージしやすい。</p> <p>○各ページにキーワードになるような写真がページ端に載っているため、興味を持ちやすい。</p>	<p>○SDGsとの関連が詳しく掲載されていて、グローバルな視点を持ちやすい。</p> <p>○他教科（社会）との関連性が明記されている。</p> <p>○特に島根県というわけではないが、日本各地の食文化にふれられていて、各地域の写真が資料として多く使用されている。住まいに関しては、出雲地方の住まいが写真資料として載っている。</p>	<p>○「生活に生かそう」というコーナーが学習したことをさらに発展させていけるような内容にまとめられている。</p> <p>○QRコードが掲載されているので、自学自習に取り組みやすい。動画で示されているので、調理などは取り組みやすい。</p> <p>○「やってみよう」「つくってみよう」「考えてみよう」「学びを生かそう」といった、ページの構成は生徒が課題を発展的に取り組んでいきやすいようになっている。</p>	<p>○社会情勢を反映した、最新の情報（成人年齢の引き下げ）等の掲載がある。</p> <p>○各内容、実物大の写真が掲載されていて、生徒がより身近に感じられるような工夫がされている。</p>
<p>○QRコードが掲載されていて、実験や実習など実際に生徒が動画などで視聴し理解を深めることができる。</p> <p>○基礎的な技術が身につくような実習事例が掲載されている。</p>						

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○1年130～230語程度、2年300～400語程度、3年280～500語程度の読み物教材があり、内容も物語や説明文、伝記のようなものなど様々で、目的に応じた読み方が指導できるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭に各単元の目標が示され、見通しをもって学習できるようになっており、巻末ではCAN-DOリストで到達度をふりかえることができるようになっている。</p> <p>○要所に文法事項についてまとめられた、Grammar for Communicationというページがあり、学習内容について自学自習で復習しやすくなっている。</p>	<p>○各学年が3つのStageで構成されており、各Stageは、文法や新出表現について4技能を使って学習するUnitと複数の技能を統合的に活用して、自己表現に取り組むStage Activityで成り立っている。</p> <p>○1年では本文に入る前に、小学校で学習した表現を使う「話す」活動があり、本文の導入も「聞く」活動から入るようになっている。小学校の学習について復習しながら、中学校の学習へとつなげられている。</p> <p>○2、3年ではUnit後半の本文について①概要・大意をつかむ②詳細をおさえる③表現につなげる、3段階の読み方ができるようになっている。</p>	<p>○道案内やレストラン、電話でのやりとりなど実生活に即した場面や状況で即興的なやりとりを行う活動が盛り込まれている。</p> <p>○2、3年ではUnitの最初に写真が提示されており、題材内容への興味・関心が高まるようになっている。</p> <p>○全学年とも、Unitの最初の映像資料 (Preview) によって、学習する文法事項を使用する目的や状況などを考えやすくなっている。</p> <p>○生徒たちも名前を聞いたことがあるような人物が題材として取り上げられており、興味・関心を高める内容となっている。</p>	<p>○各ページの新出語句の下に小学校で学習した単語が記載されており、小中の学びが接続しやすくなるよう配慮されている。</p> <p>○各学年に「学び方コーナー」があり、語彙や音声などについて、生徒が自ら学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>○水問題や環境問題、貧困の問題など国際的な課題など、視野を広げることにつながるものが題材となっている。</p> <p>○ユニバーサルデザインや伝統文化、防災への取り組みなど、身近な暮らしや社会とも関連が深いことが題材として取り上げられている。</p>	<p>○実生活に即して、場面や状況、目的にあわせたコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、Let's Talk / Listen / Write / Read という活動が設定されている。</p> <p>○異文化理解や人権、平和への取り組みなど、道徳との関連が深い題材が取り上げられている。</p> <p>○食物連鎖や18歳選挙権などを英語で学ぶページがあり、他教科と関連づけて学習を深められる工夫がある。</p> <p>○QRコードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながることができ、学校でも家庭でも音声を活用した学習を行いやすくなっている。</p>	<p>○4技能5領域について、それぞれの技能を伸ばすものや統合的に力を伸ばすものなど、様々な活動が用意されている。</p> <p>○生徒が自ら考え、判断したことを適切に表現できるように、段階的に学びが深まっていくような構成となっている。</p> <p>○小学校で学習した単語のリストが掲載されているなど、小学校での学習とのつながりを感じやすくなるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
D	<p>○Programの最初でははっきりとした場面設定がなされており、言語使用場面と学習内容が分かりやすく配置されている。</p> <p>○1年生の初めは中学校での生活を、小学校での既習英語を復習しながら、学べるように工夫されている。また教科書に書き込みができるように、スムーズに学習できるようになっている。</p>	<p>○1つの”Program”は”Scenes” ”Think” ”Retell” ”Interact”から成り立っており、知識・技能を身に着けた後、思考力・判断力・表現力を働かせ、最後は既習事項で自己表現する流れで構成されている。またページ右上にはインデックスがついており、何を目的に学習しているのか可視化されている。</p> <p>○いくつかの”Program”の後には、”project”が設定されており、マッピングを利用しながら今までの既習事項を応用してスピーチに取り組むことができるように工夫されている。</p> <p>○教科書の音読回数をチェックしていく欄があり、音読練習や、基礎基本の定着を図るための工夫がなされている。</p>	<p>○それぞれのProgramの初めのページは英語の漫画になっており、これから学ぶ英語の内容を漫画が補うような工夫がなされている。</p> <p>○日本文化はもちろん、諸外国の日本とは異なる状況(ケニアでの通学について、オーストラリアの世界遺産、季節、フィンランド、カナダの自然など)に触れており、世界に視野を広げるような、また英語を通して日本を学ぶような題材が選ばれている。</p> <p>○ドローン、ロボットなど最先端技術について、触れられている。</p> <p>○多くの生徒が子どもの時に読んだであろう有名な絵本が英語で紹介されており、英語で書かれている内容にも、抵抗が少なくなるような題材が選ばれている。</p>	<p>○発音についての解説がそれぞれのページについている。(文末の上げ下げ、似ている発音、アクセントについて、解説やプラスαの解説がなされている。</p> <p>○1年生で基本的なフォニックスを学び、これからの英語の発音に抵抗が少なくなる配慮がなされている。</p> <p>○”Interact”のページでは”Word Box”を設けて、語彙を補充し、表現活動がスムーズにできるように配慮されている。</p>	<p>○QRコードの添付がされている。家庭にコードを読み取る環境が整っていれば、発音練習を家庭で正しく行うことができる。</p> <p>○それぞれ学習した文構造について、その課の最後にまとめのページが設定されている。</p> <p>○「英語でのやりとり」のページでは巻末資料のカードを用いて、やりとりの学習ができる。</p> <p>○2年生の予定や未来を学習する場面では、進級した生徒たちに実際に「2年生の目標」や週末、夏休みの予定を英語で立てるなど実際の生活に密着するような英語の利用がなされている。</p>	<p>○QRコードが添付されている。</p> <p>○目標が見え、学習の手順が分かりやすく、見通しをもちやすくなっている。また、達成感を得られるような配慮が多くなされている。</p> <p>○諸外国について、環境問題、教育環境、職についてなど多く取り上げてあり、今日的課題を自分の立場で考えるとともに、日本から世界に視野を広げる題材の工夫がみられる。また、諸外国から見た日本文化や、日本を学習することにより、母国について再発見をしたり、考えたりするような内容になっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	(感性をはぐくむ要素を含む)
F	<p>○ことばを使いながら「かわることあうことは互いを認め合う事」「考えることは自分と向き合うこと」「学ぶことは自分の可能性を広げること」というテーマをあげ、それぞれのlessonでの活動に取り組むことができる。</p> <p>○それぞれのlessonでは聞く→話す<やりとり>→読む→書くの順番で知識を深め、活用できるような工夫がなされている。</p> <p>○教科書に直接書き込めるように、構成されており、生徒がスムーズに学習できる工夫がなされている。</p>	<p>○1つの”Lesson”で5つの観点(読む、聞く、話す<やりとり>、話す<発表>、書くの活動)をすることができるように構成されている。</p> <p>○教科書に直接書き込むことができ、左側にモデルを置きながらスムーズに書くことができる。</p>	<p>○日本文化、日本についての話題(1年: Discover Japan, Enjoy Sushi, 2年: Rakugo 3年: The Story of Sadako, The World’s Manga and Anime)をたくさん取り上げ、日本の姿を知り、さらに興味をもって発信する力がつくように題材が選ばれている。</p> <p>○外国文化や外国についての話題(1年: My family, My Hometown, School Life in the U.S.A. 2年: Uluru 3年: Language in India, I have a Dream)をたくさん取り上げ、世界の状況や事実を知り、そこからさまざまな問題を見出し、解決できるような思考力、それを表現する表現力がつくように題材が選ばれている。</p> <p>○2年My Dreamなど、自分の生き方を前向きにとらえることのできる題材が選ばれている。</p>	<p>○1年生でフォニックスに関する付録がついており、発音の学習に役に立つ。</p> <p>○前置詞、過去形と現在完了形などを絵で説明しており、イメージとして理解しやすい工夫がなされている。</p> <p>○付録にさまざまなカテゴリーの語彙が記載されており、英作文や表現活動の時に、活用できる配慮がなされている。</p> <p>○日本限定のアイスクリームを提案しようなど、想像力を膨らませながら、英語表現を学習できる題材が取り上げられている。</p> <p>○3年間通して、環境問題や、異文化相互理解をテーマとした題材や、日本文化を発信する力をつけるような題材が取り入れられている。</p>	<p>○QRコードの導入で、正しい音声の学習ができるように工夫されている。</p> <p>○For Self-study(3年)として、教科書の外でも英語に触れる機会を具体的に紹介しており、生徒の環境や興味に応じて、英語の世界を広げることのできる例が紹介されている。</p> <p>○付録に様々な既習事項がまとめて配置してあることで、家庭での学習に、教科書を使用しやすいように工夫されている。</p>	<p>○外国語活動からのつながりを意識した入門期から将来を見据えた卒業まで段階を追った構成になっている。</p> <p>○3年間を通して、環境問題、車イスバスケット、私の夢、世界遺産、落語など幅広い題材について触れることができる。それらの題材を通して聞くこと、話すこと(やりとり、発表)、読むこと、書くことを興味をもって、バランスよく学習することができる。</p> <p>○落語、広島原爆、漫画、アニメ文化など日本文化を、英語や、諸外国の視点を通して、改めてとらえ直し、日本について再発見、また新発見をすることができる。それにより生徒たちの物の見方を揺さぶり、多角的な視点をもつきっかけを与える題材が選ばれている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
G	<p>○各学年とも分量は標準時数に対して適切である。</p> <p>○各Unitの題材・文法構造・目標・イラストや写真等の一覧が巻頭に掲載され、見通しをもって学習を進めていくことができるように工夫されている。</p>	<p>○Lessonごとにどのような活動を通して、何をゴールにしているのかを明確に示してある。</p> <p>○Lessonごとに、Activityの中で聞くこと読むこと書くことなどの活動があり、最後にGrammarで学習した英文の仕組みを確認する構成になっており、活動を通して技能を身に着けていくことができるように工夫されている。また、それぞれ教科書に書き込みながら表現活動に取り組むことができるような構成になっている。</p> <p>○Lessonの間に、適時Listening, Reading, Useful Expression, Project等様々な活動が盛り込まれ、複数の技能を統合的にバランスよく取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○Activityでは、教科書に書き込んだりしながら、チャットやスピーチなどの表現活動を行うことができる工夫がされている。</p> <p>○Grammarでは、英語の文構造の仕組みについて矢印や色を上手く利用してわかりやすく説明されている。特に生徒が間違えやすい事柄については、詳しく丁寧に説明がなされている。</p> <p>○Lessonの最初に写真が提示されており、題材内容への興味・関心が高まるようになっている。</p>	<p>○1年のSpring boardでは、フォニックスの学習も含めて音声を取り扱った内容となっており、小学校から中学校へのスムーズな学習の繋がりがなされるよう工夫されている。</p> <p>○教科書の本文の音読練習の回数をチェックして書き込んでいくことができるようになっている。</p> <p>○3年間通して、環境問題、スポーツ界で活躍する人々、平和について考えるなど、様々なテーマが取り上げられており、それぞれのテーマについて自分なりに考えを深めていくことができる。</p>	<p>○Activity Plusでは、付属の赤いフィルムシートを使って、学習した英文や表現を使って話したり、会話をしたり、スピーチをしたりする活動の手助けになるような配慮がなされている。</p> <p>○巻末のCan-Doリストでは、学年の到達度目標を自己評価して書き込むことができるようになっており、自分ができていないところの確認がしやすくなっている。</p> <p>○QRコードの添付がされている。家庭にコードを読み取る環境が整っていれば、発音練習を家庭で正しく行うことができる。</p> <p>○How to Studyでは、英語力を高めるために、授業以外でできることを先輩の声として示し、学ぶ意欲を高める工夫がされている。</p>	<p>○日本文化や異文化理解の一助となる挿絵や、魅力的な写真が随所に盛り込んであり、実際に実物に接しながら、学習を進める工夫がなされている。</p> <p>○事前の到達目標の提示やレッスン後の文法事項の復習など、見通しを持って学習に取り組むことができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
I	<p>○各学年とも分量は標準時数に対して適切である。</p> <p>○1年では、自分のこと、2年では日本文化等、3年では社会的な問題等を扱い、各学年の発達段階や興味・関心に配慮した内容となっている。</p> <p>○各Unitの題材・文法構造・目標等の一覧が巻頭に掲載され、見通しをもって学習を進めていくことができるように工夫されている。</p>	<p>○冒頭部分で「やってみよう!」「見つけよう!」「続けていこう!」という3年間通して段階的にレベルアップを目指す投げかけがあることや、各学年の目標、各学期の目標が常に明記してありポイントが分かりやすい。</p> <p>○読み物は楽しい内容のものや、生き方について考えさせられるものなどバラエティに富んでいる。</p>	<p>○Active Grammarでは、語順を意識した文法説明がなされており、色などを効果的に使用して、生徒の主體的な学習の手助けになる工夫がされている。</p> <p>○英語のしくみでは、文の形を分かりやすく説明したり、品詞の特徴をについてイラストを活用したりしながら視覚的に理解することができるようになるようになっている。</p> <p>○人物に感情移入をしやすくするイラストや、魅力的な写真を用いたり、言葉のやり取りを、親しみのある読みやすい設定で読み取ることができるような工夫がなされたりしており、興味・関心が高まりやすい。</p>	<p>○生徒の身近な話題から、体験したこと、環境問題等様々な題材が取り入れられており、自分はどう考え、伝えるべきか考えることができる。</p> <p>○Let's Be Friends!では小学校外国語での学習を考慮した内容となっており、小学校から中学校へスムーズに学習がつながれるように工夫されている。</p>	<p>○英語の学び方ガイドでは、生徒の学習に対する素直な質問に対して、自分に合った学習方法を見つけられるよう、いくつか例を挙げて示してあり、学習していくために役立つコツを段階に合わせて取り入れている。</p> <p>○Story Retellingでは、イラストとキーワードをもとに、今までの学習したことを自分の言葉で伝えることができるような工夫がされている。</p> <p>○Let's Talkでは、生徒の身近な興味関心のある内容について、その場でやり取りをすることができるような工夫がされている。</p> <p>○QRコードの添付がされている。家庭にコードを読み取る環境が整っていれば、発音練習を家庭で正しく行うことができる。</p>	<p>○小学校から中学校へのつながりを意識した入門期から、将来を見据えた卒業まで段階を追った構成になっている。</p> <p>○学校生活や社会的な課題を取り上げたり、生徒の心を揺さぶる話題を取り上げたりして、学習を通して人としての成長を促す内容となっている。</p> <p>○自己発信型のコミュニケーションができるような教材が多く取り入れられ、複数の技能をバランスよく育成することができる構成となっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点					総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
L	<p>○本文は、1年100～120語程度、2年130～190語程度、3年170～230語程度と、発達段階に応じて学年やUnitを追うごとに本文が長くなっている。</p> <p>○1年生の後半から、各Unitの最後に設置されている「Read & Think」の本文では、そのUnitで学習した新出文法がすべて含まれており、流れの中で理解を深められるようになっている。</p> <p>○ペア活動やグループ活動が数多く設定されており、意見や考えを伝え合うことで学びを深められるようになっている。</p>	<p>○全Unitとも「読む」→「聞く」→「話す(やりとり、発表)」→「話す(やりとり、発表)」・「書く」という一連の流れになっている。</p> <p>○各学年で2、3回、それまでの技能をあわせた活動Projectに取り組むことで力を伸ばすことができるよう工夫されている。</p> <p>○1年生の教科書では、Let's Start という、小学校の学習内容のふりかえりを行う単元が設定されており、スムーズに中学校の学習へと接続できるようになっている。</p>	<p>○2、3年生では各Unitの最初に内容に関する写真と学習への興味・関心が高まるような質問が書かれている。</p> <p>○話す活動については、巻末にWord Boxとして様々な表現が分かりやすくまとめられ、活用できるようになっている。</p> <p>○写真にセリフを当てはめるような活動があり、生徒が楽しみながら英語を使う工夫がある。</p>	<p>○異文化理解や防災、福祉など身近な社会課題が題材として扱われている。</p> <p>○伝統文化や地方創生が題材として取り上げられており、3年生では自分の住む町を紹介する活動や日本の伝統文化を紹介する活動が設定されている。</p> <p>○各学年に文法事項についてまとめられた「Targetのまとめ」があり、生徒が自学自習で復習しやすくなっている。</p>	<p>○様々な人物の生き方や平和などが題材となっている。</p> <p>○面積や平均寿命、日本からの海外への渡航者数などを取り上げたUnitがあり、社会と関連付けて学習を深める。</p> <p>○QRコードにより、本文の音声や映像など複数のデジタル教材につながることができ、学校だけでなく、家庭でも音声を確認しやすくなっている。ことができる。</p>	<p>○日本や世界で起こっていることや、グローバルな問題や地域の課題が題材として取り上げられており、生徒たちが自分のこととして考えたり発信したりしやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○各Unitの前半にある「Part」の部分は語数が多すぎないようにしており、学習内容を用いた様々な活動に取り組む時間が確保しやすくなるものと思われる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科道徳 No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
A	<p>○付録を含めて35時間以上の教材が記載されている。小学校教材「橋の上のおおかみ」も掲載されている。(1年p.180)</p> <p>○全学年の巻頭折込ページで、オリエンテーションや話し合いの手引きが示され、道徳科の授業のイメージをもちやすい工夫がされている。</p>	<p>○教材名ではなく、考えの観点タイトルとして大きな文字になっており、学習課題が理解しやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○全学年で2時間扱いの問題解決的な学習が設定されており、話し合いが生まれやすい工夫がされている。(1年p.86-91)</p>	<p>○教材の冒頭に内容項目に関する漫画の一コマが掲載されており、興味をもって学習するための工夫がされている。(3年p.140)</p> <p>○全学年「Action!」を通して、班で話し合ったり、役割演技をしたりして、問題解決的な学習を促す工夫がされている。(2年p.84)</p> <p>○インパクトのある写真(1年p.134-135)や3年間共通したキャラクター(3年p.134)が出てくる。</p>	<p>○情報モラルや福祉などの現代的な課題について考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p.102)(2年p.94)</p> <p>○全学年で、いじめや生命について考えるユニットがあり、それぞれ3時間の授業で重点的に学習できるようになっている。(2年p.23-39)</p>	<p>○QRコードから動画や関連する他教科の内容のサイトにアクセスでき、学びが広がる工夫がされている。</p> <p>○全学年「プラス」で詩や名言・格言、著名人の紹介、コミュニケーションのしかた等が示され、学びを実生活に生かすことができるようになっている。(1年p.20,2年p.99)</p> <p>○教材の冒頭ページ下に関連のある教科等を示しており、各教科の学びの関連を意識づけられるようになっている。(2年p.48)</p>	<p>○各教材の最後に「考えよう」「自分を見つめよう」が設定されており、教材の内容と実生活の両面から深く考えられるように工夫されている。</p> <p>○生徒の気づきや考えをメモするための「つぶやき」が掲載されている教材がある。また、巻末には学期ごとの振り返りを書く切り取り可能なページが掲載されている。</p>
<p>○「心情円」が巻末に付録としてついており、言葉で気持ちを伝えるのが難しい生徒にも、自分の考えを表現させるためのツールとして使えるよう、工夫されている。また、ホワイトボード用紙を用いてグループでの話し合いがしやすい工夫がされている。</p> <p>○AB判サイズを採用 ○学年に応じ、漢字にルビを振っている。 ○文字はUDフォントを使用。 ○色覚特性への配慮がなされている。</p>						
G	<p>○補充教材を含めて35時間分の教材が記載されている。</p> <p>○全学年の巻頭ページで、オリエンテーションや授業の流れについて示され、授業のイメージをもちやすくなる工夫がされている。</p>	<p>○教材名の下に導入や主発問になり得る問いが記載され、学習に見通しをもつための工夫がされている。(1年p.14)</p> <p>○全学年で「やってみよう」が設定されており、教材を読んだ後に役割演技などの体験を通して考えを深める工夫がされている。(1年p.29)</p>	<p>○3年間を通して同じ学校や登場人物が出てくる教材があり、親しみやすい。(1年p.94-99,2年p.62-65)</p> <p>○インパクトのある写真を掲載し、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(3年p.56)</p> <p>○オープンエンドかつ自分ごととして捉えやすい教材があり、考えを深めやすい工夫がされている。(1年p.100-101,3年p.80-83)</p>	<p>○裁判員制度や減災など、現代的な課題や、具体的なコミュニケーションのしかたについて考え、実際の生活で実践するための工夫がされている。(3年p.94-95,2年p.122-131,1年p.54-55)</p> <p>○SNSの投稿やいじりなど、中学生に身近な話題や生命尊重についての連続教材がすべての学年に掲載されており、重点的に学習できるようになっている。(2年p.30-47,p90-107)</p>	<p>○「まなびリンク」というQRコードから、教材に出てくる人物について詳しく学習できる工夫がされている。</p> <p>○全学年巻末に「都道府県にゆかりのある人物とその言葉」が記載されており、郷土について考える工夫がされている。(2年p.184)</p> <p>○1年生前半の教材(1-10)では文字を大きくし、中学校の学習に段階的に慣れていけるような配慮がされている。</p>	<p>○各教材の最後の「学びの道しるべ」には3つの問いが掲載されており、教材の内容と自分の生き方両方について考えを深める工夫がされている。</p> <p>○巻末に1時間ごとの学習を記録する欄、学期末・学年末に学びを振り返る切り取り可能なページが掲載されている。</p>
<p>○手になじむ B5判 ○カラーユニバーサルデザイン ○右ページ始まりの教材が多い。</p> <p>○学年に応じ、漢字にルビを振っている。</p>						

選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科道徳 No. 2

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への工夫等	4.教科の特性、地域の実態等への適合	5.発展的学習、家庭学習の工夫	
I	<p>○31時間分の教材と4時間分の付録教材、合計35時間分の教材が掲載されている。全学年の付録教材には、小学校教材が掲載されている。(3年p.175-「手品師」)</p> <p>○全学年、授業開きとして「道徳の授業を始めよう!」、振り返りとして「道徳の学びを振り返ろう」が35時間分の中に一教材として組み込まれている。</p> <p>○UD フォント ○文字は独自開発をした光村明朝体を使用。</p>	<p>○1年間を3つのシーズンに区切り、学びのテーマが設定されている。各シーズンはユニットで構成されており、テーマを連続的かつ重点的に学習できるように工夫がされている。</p> <p>○教材名の上に内容項目が掲載されており、見通しをもって学習しやすい工夫がされている。(1年p.10)</p> <p>○持ち運びしやすいB5判</p>	<p>○「深めたいむ」では、具体的な場面が設定されており、自分事として考えやすい工夫がされている。(1年p.34)</p> <p>○全学年で絵本「なんだろうなんだろう」や著名人直筆のメッセージが記載されており、生徒の興味を引く工夫がされている。(1年p.80-81,182-183)</p> <p>○カラーUDの専門家による校閲を実施。</p>	<p>○「広げよう」では、国際協力やSDGsなどの現代的な課題について考えたり、自尊心の向上やアンガーマネジメントなど実生活で実践を促したりする工夫がなされている。(2年p.106,3年p.116,2年p.26,p.30)</p> <p>○「つなげよう」では他の教材、他の教科、実生活との関連等が掲載され、学びをつなげる工夫がされている。</p>	<p>○QRコードを読み取って、教材に関する情報にアクセスして学習できるよう工夫がされている。</p> <p>○各学年の巻末には、日本各地の郷土玩具や世界遺産、先駆者が紹介されており、郷土についての理解を深められるよう工夫がされている。(2年p.185-187)</p>	<p>○各教材の最後の「考えよう」では、教材の内容について考えを深めるための2つの問いが記されている。また、「見方を変えて」「つなげよう」の問いによって、多面的・多角的に考えたり、実生活につながる工夫がされている。</p> <p>○巻末にはシーズンごとに振り返りができる切り取り可能なページが掲載されている。</p>
O	<p>○35時間分の教材が内容項目やテーマのバランスを考えて配列されている。</p> <p>○全学年の巻頭ページで、道徳科で学ぶことや学び方について示してあり、授業の流れを捉えやすいよう工夫されている。</p> <p>○中学生で学習するすべての漢字にふり仮名がついている。</p> <p>○カラーUDの専門家による校閲を実施。</p>	<p>○教材名の上に主題名が示されていたり、教材名の下に登場人物の絵や写真が掲載されていたりすることから、生徒の見通しや理解を助ける配慮がされている。</p> <p>○「学習の進め方」では、役割演技や話し合いの進め方などが具体的に示されており、生徒が授業に参加しやすくなるための工夫がされている。(1年p.64)</p>	<p>○登場人物2人の異なった視点からの教材(2年p.30-37)や「プラットホーム」「参考」「私の生き方」というコラムにより、生徒が興味をもちやすく、多面的・多角的に考えられる工夫がされている。(3年p.41-43)</p> <p>○全学年でインパクトのある写真を掲載し、生徒の興味を引く工夫がされている。(1年P.120,162-163)</p>	<p>○全学年で「いじめと向き合う」「よりよい社会と私たち」のユニット学習が配列されており、社会への参画や人としての生き方を重点的に学習できるよう工夫がされている。(1年p.28-49)</p> <p>○さまざまな性や減災などの現代的な課題について考えを深められる教材が掲載されている。(3年p.101,p.84-85)</p> <p>○巻末の「内容項目教材別一覧」により、他教科とのつながりを意識した指導ができるよう工夫がされている。</p>	<p>○QRコードから教材のページにアクセスして写真やデータ、クイズなどを通して学習できるように工夫されている。</p> <p>○「プラットホーム」では、アサーションやアンガーマネジメント、自転車の乗り方、SNSの使い方など実生活に結び付けていくための情報が掲載されている。(3年p.42-43,1年p.98-99)</p> <p>○別冊「道徳ノート」では、保護者記入欄も設定されており、生徒の成長を学校と家庭とで共有できるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材の最後の「考えてみよう」はねらいに迫る問いが、「自分に+1」はさらに考えを深める問いが掲載されている。</p> <p>○別冊「道徳ノート」は教科書本誌に対応しており、自分のこと、発問、自分の考え、他者の考え、話し合いの様子、さらに振り返りを記入することができるようになっている。</p> <p>1年間の学びを記録するページも掲載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科道徳 No. 3

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への工夫等	4. 教科の特性、地域の実態等への適合	5. 発展的学習、家庭学習の工夫	
P	<p>○35時間分の教材が内容項目やテーマのバランスを考慮して配列されている。</p> <p>○全学年の巻頭ページで、道徳科で学ぶことや授業の流れについて示されており、授業のイメージをもちやすくする工夫がされている。</p>	<p>○漫画や紙芝居形式などの多様な形式の教材が用いられている。(2年p.30・p.94)</p> <p>○全学年、「地球と地域と未来のために」「夢に向かって共に輝く」の2つのユニット学習が組み込まれており、テーマに沿って重点的に学習できるよう工夫されている。(2年p.50-61,p.112-123)</p>	<p>○「挨拶しますか、しませんか」「ごみ収集場所をどこに」「杉原千畝の選択」など、生徒が議論しやすく、多面的・多角的に考えられるような教材の工夫がされている。(1年p.20,2年p.22)</p> <p>○教材名の下に内容項目や発問になり得る一文が記載されており、興味・関心を高める工夫がされている。</p>	<p>○高校生の政策コンペやオリンピック選手、福祉道具などの新しい話題や、災害やSNSなどの現代的な課題が教材として記載され、視野を広げる工夫がされている。(2年p.44・132)</p> <p>○大田市の中学校が作成に携わった教材「金色の稲穂」が掲載され、地域の教材を生かして考えを深められるよう工夫されている。(1年p.90)</p>	<p>○QRコードを読み取って教材に関する写真や動画、音源を視聴し、授業や家庭で活用できる工夫がされている。</p> <p>○「クローズアップ」では、教材に関する情報のみならず、自己肯定感やアンガーマネジメントなども扱い、日常生活で実践していけるよう工夫がされている。(2年p.85,p.55)</p> <p>○巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」で、各教材とテーマの関連が意識づけられるよう工夫がされている。</p>	<p>○各教材の最後の「考えよう」では発問が2つ用意され、ねらいに迫ることができるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭「マイプロフィール」、巻末「心の四季」「学びの記録」により、自己理解を深め、自身の成長や変化を捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○巻末には学期末ごとに振り返りができる切り取り可能なページが掲載されている。</p>
	<p>○取り組み方がわかるマークの工夫 (情報モラルのマーク、書き込み欄のマーク) ○右ページ始まり</p> <p>○UDフォント、カラーユニバーサルデザイン</p>					
S	<p>○35時間分の教材が内容項目のバランスを考慮して配列されている。</p> <p>○全体的にシンプルな色使いとなっている。</p> <p>○全学年の巻頭ページで、道徳科の授業で学ぶことについて掲載されており、学習の見通しをもたせる工夫がされている。</p>	<p>○読み物を中心に教材が掲載されており、従来の道徳科の授業から緩やかな変化の構成となっている。</p> <p>○別冊「中学生の道徳ノート」の前半に、各内容項目に関連した資料が1ページずつ掲載され、本誌と合わせて活用することができるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材の最後に先人や現在、活躍している著名人の言葉が掲載されており、生徒の興味を引く工夫がされている。</p> <p>○全学年で、友情をテーマにした教材「アイツシリーズ」に共通した人物が登場し、生徒が自分の成長と重ねて学習できるように工夫されている。(2年p.132)</p>	<p>○全学年の巻末に、いじめや情報モラル、キャリア教育などの現代的な課題の特集をまとめて扱っており、各教材の学習と併せて活用できるように工夫されている。(1年p.174)</p>	<p>○QRコードを読み取って教材に関する多くの写真や動画を活用し、学びを深める工夫がされている。</p> <p>○「thinking」では教材と併せて活用できる資料が掲載されている。(2年p.30)</p> <p>○1年生の教科書では文字を大きくし、中学校の学習に段階的に慣れていけるような配慮がされている。</p>	<p>○各教材の最後の「考える・話し合う」では、教材の内容に関する問いとともに考えを広げたり深めたりする視点も示されており、学びを深める工夫がされている。</p> <p>○別冊「中学生の道徳ノート」には、1時間ごとの学習記録、心に残った授業、学期・年間の振り返りを記入する欄があり、考えの変化や成長を見つめることができるよう工夫されている。</p>
	<p>○AB判サイズを採用 ○学年に応じ、漢字にルビを振っている。 ○カラーUDの専門家による校閲を実施。</p>					